



AMS アドバンスド変更タイプの例

AMS Advanced Change Management ユーザーガイド



Version January 23, 2025

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AMS Advanced Change Management ユーザーガイド: AMS アドバンスト変更タイプの例

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

例	1
ウォークスルーのレビュー	1
マネージドプレフィックスリストを作成する	3
マネージドプレフィックスリストを削除する	7
マネージドプレフィックスリストを変更する	10
リソース共有の作成	13
ELB リスナールールを削除する	17
DHCP オプションセットを関連付ける	20
DNS スカベンジングの問題を修正する	23
VPC ルートを削除する	26
DB インスタンスまたはクラスターのパラメータグループを更新する	29
Site-to-Site VPN トンネルを置き換える	32
DHCP オプションセットを作成する	35
ELB リスナールールを作成する	39
VPC エンドポイントポリシーの更新	44
NAT ゲートウェイの削除 (マネージドオートメーション)	47
EC2 インスタンスメタデータサービス (IMDS) リージョン設定の更新	50
コンピュータオブジェクトの SPN を作成する	54
ターゲットグループを削除する (マネージドオートメーション)	57
Application Load Balancer (ALB) を作成する	61
Application Load Balancer (ALB) を更新する	64
リスナーを作成する	68
高可用性 1 層スタック: 作成	72
IAM エンティティまたはポリシーの作成 (マネージドオートメーション)	75
カスタム CloudFormation スタックのロールバックを続行する	80
VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する	83
スケジュールの追加	86
EBS スナップショットの削除 (マネージドオートメーション)	89
SNS トピックを更新する	93
S3 アクセスポイントを作成する	96
カスタム RDS パラメータグループの作成	99
Amazon S3 バケットにイベント通知を追加する	102
AMS 自動 IAM プロビジョニングのカスタム拒否リストを更新する	106

AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを SALZ アカウントの Route 53 に移行する (マネージドオートメーション)	109
VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する	112
拡張モニタリングの更新	116
VPC をリゾルバールールに関連付ける	119
AMS パターンをデプロイする (マネージドオートメーション)	122
AWS KMS キーの共有	125
Active Directory 信頼の作成	128
スタックアクセス期間を上書きする (マネージドオートメーション)	132
読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 IAM プロビジョニングを有効にする	135
VPC 静的ルートの追加 (マネージドオートメーション)	138
IAM エンティティまたはポリシーを作成する	141
IAM エンティティまたはポリシーを更新する	146
IAM エンティティまたはポリシーを削除する	150
詳細モニタリングの更新	153
ディレクトリを共有する	157
ディレクトリの共有解除	160
VPC エンドポイントを作成する	163
RDS ストレージを更新する	167
RDS マルチ AZ デプロイを更新する	170
RDS インスタンスタイプを更新する	174
S3 バケットのバージョニングを更新する	177
S3 バケット暗号化を更新する	180
アプリケーションアカウントの更新 (マネージドオートメーション)	184
プライベート IP アドレスの関連付け (マネージドオートメーション) ct-1pvlhug439gl2	187
Amazon RDS オプショングループの作成 (マネージドオートメーション)	190
TGW 静的ルートを削除する	193
WIGS 用に を作成する (マネージドオートメーション)	197
EBS ボリュームの変更	200
更新 AWS Backup プラン (マネージドオートメーション)	204
オフボーディングの確認	208
管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント	212
AMS リソーススケジューラソリューションをデプロイする	216
AMS リソーススケジューラソリューションの更新	219
アクセスキーを削除または非アクティブ化する	223
アクセスキーを作成する	226

詳細モニタリングを有効化	230
DeleteOnTermination オプションを更新する (マネージドオートメーション)	233
RDS メンテナンスウィンドウの更新 (マネージドオートメーション)	236
RDS パフォーマンスインサイトの更新 (マネージドオートメーション)	240
セキュリティグループの作成 (マネージドオートメーション)	243
.....	ccxlviii

例

トピック

- [ウォークスルーのレビュー](#)

ウォークスルーのレビュー

トピック

- [マネージドプレフィックスリストを作成する](#)
- [マネージドプレフィックスリストを削除する](#)
- [マネージドプレフィックスリストを変更する](#)
- [リソース共有の作成](#)
- [ELB リスナールールを削除する](#)
- [DHCP オプションセットを関連付ける](#)
- [DNS スカベンジングの問題を修正する](#)
- [VPC ルートを削除する](#)
- [DB インスタンスまたはクラスターのパラメータグループを更新する](#)
- [Site-to-Site VPN トンネルを置き換える](#)
- [DHCP オプションセットを作成する](#)
- [ELB リスナールールを作成する](#)
- [VPC エンドポイントポリシーの更新](#)
- [NAT ゲートウェイの削除 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [EC2 インスタンスメタデータサービス \(IMDS\) リージョン設定の更新](#)
- [コンピュータオブジェクトの SPN を作成する](#)
- [ターゲットグループを削除する \(マネージドオートメーション\)](#)
- [Application Load Balancer \(ALB\) を作成する](#)
- [Application Load Balancer \(ALB\) を更新する](#)
- [リスナーを作成する](#)
- [高可用性 1 層スタック: 作成](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーの作成 \(マネージドオートメーション\)](#)

- [カスタム CloudFormation スタックのロールバックを続行する](#)
- [VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する](#)
- [スケジュールの追加](#)
- [EBS スナップショットの削除 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [SNS トピックを更新する](#)
- [S3 アクセスポイントを作成する](#)
- [カスタム RDS パラメータグループの作成](#)
- [Amazon S3 バケットにイベント通知を追加する](#)
- [AMS 自動 IAM プロビジョニングのカスタム拒否リストを更新する](#)
- [AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを SALZ アカウントの Route 53 に移行する \(マネージドオートメーション\)](#)
- [VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する](#)
- [拡張モニタリングの更新](#)
- [VPC をリゾルバールールに関連付ける](#)
- [AMS パターンをデプロイする \(マネージドオートメーション\)](#)
- [AWS KMS キーの共有](#)
- [Active Directory 信頼の作成](#)
- [スタックアクセス期間を上書きする \(マネージドオートメーション\)](#)
- [読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 IAM プロビジョニングを有効にする](#)
- [VPC 静的ルートの追加 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを作成する](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを更新する](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを削除する](#)
- [詳細モニタリングの更新](#)
- [ディレクトリを共有する](#)
- [ディレクトリの共有解除](#)
- [VPC エンドポイントを作成する](#)
- [RDS ストレージを更新する](#)
- [RDS マルチ AZ デプロイを更新する](#)
- [RDS インスタンスタイプを更新する](#)

- [S3 バケットのバージョニングを更新する](#)
- [S3 バケット暗号化を更新する](#)
- [アプリケーションアカウントの更新 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [プライベート IP アドレスの関連付け \(マネージドオートメーション\) ct-1pvlhug439gl2](#)
- [Amazon RDS オプショングループの作成 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [TGW 静的ルートを削除する](#)
- [WIGS 用に を作成する \(マネージドオートメーション\)](#)
- [EBS ボリュームの変更](#)
- [更新 AWS Backup プラン \(マネージドオートメーション\)](#)
- [オフボーディングの確認](#)
- [管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント](#)
- [AMS リソーススケジューラソリューションをデプロイする](#)
- [AMS リソーススケジューラソリューションの更新](#)
- [アクセスキーを削除または非アクティブ化する](#)
- [アクセスキーを作成する](#)
- [詳細モニタリングを有効化](#)
- [DeleteOnTermination オプションを更新する \(マネージドオートメーション\)](#)
- [RDS メンテナンスウィンドウの更新 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [RDS パフォーマンスインサイトの更新 \(マネージドオートメーション\)](#)
- [セキュリティグループの作成 \(マネージドオートメーション\)](#)

マネージドプレフィックスリストを作成する

コンソールを使用したマネージドプレフィックスリストの作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定領域を開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したマネージドプレフィックスリストの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --change-type-id "ct-1bw3q0obl5y75" --change-type-version "1.0"
--title "AWSManagedServices-CreatePrefixList" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-CreatePrefixList\", \"Region\": \"ap-southeast-1\", \"Parameters
\": {\"PrefixListName\": [\"newprefix_list_2\"], \"MaxEntries\": [4], \"AddressFamily\":
[\"IPv4\"], \"CIDRBlockIPv4\": [{\"Cidr\": \"10.0.0.0/16\", \"Description\": \"Value_1\"},
{\"Cidr\": \"192.168.1.0/24\", \"Description\": \"networking item\"}]}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、CreatePrefixListParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1bw3q0obl5y75"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreatePrefixListParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreatePrefixList",
  "Region": "ap-southeast-1",
  "Parameters": {
    "PrefixListName": ["newprefix_list_2"],
    "MaxEntries": [4],
    "AddressFamily": ["IPv4"],
    "CIDRBlockIPv4": [
      {"Cidr": "10.0.0.0/16", "Description": "Value_1"},
      {"Cidr": "192.168.1.0/24", "Description": "networking item"}
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では CreatePrefixListRfc.json:

```
aws amscm create-rtc --generate-cli-skeleton > CreatePrefixListRfc.json
```

4. CreatePrefixListRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-1bw3q0obl5y75",
  "Title" : "Create managed prefix list"
}
```

5. CreatePrefixListRfc ファイルと CreatePrefixListParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rtc --cli-input-json file://CreatePrefixListRfc.json --execution-parameters file://CreatePrefixListParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

マネージドプレフィックスリストを削除する

コンソールを使用したマネージドプレフィックスリストの削除

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したマネージドプレフィックスリストの削除

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3fh88p7t5k5gi" --change-type-version "1.0" --
title "AWSManagedServices-DeletePrefixList" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-DeletePrefixList\", \"Region\": \"ap-southeast-1\", \"Parameters\":
{\"PrefixListId\": [\"p1-0b6430edc53fc274c\"]}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では DeletePrefixListParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3fh88p7t5k5gi"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeletePrefixListParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-DeletePrefixList",
  "Region": "ap-southeast-1",
  "Parameters": {
    "PrefixListId": ["pl-0b6430edc53fc274c"]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では DeletePrefixListRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeletePrefixListRfc.json
```

4. DeletePrefixListRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-3fh88p7t5k5gi",
  "Title" : "Delete managed prefix list"
}
```

5. RFC を作成し、DeletePrefixListRfc ファイルと DeletePrefixListParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeletePrefixListRfc.json --execution-
parameters file://DeletePrefixListParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

マネージドプレフィックスリストを変更する

コンソールを使用したマネージドプレフィックスリストの変更

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、古いバージョンで作成オプションが RFC の作成ボタンの横に表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したマネージドプレフィックスリストの変更

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2s1q5tj10416n" --change-type-version "1.0"
--title "AWSManagedServices-ModifyPrefixList" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-ModifyPrefixList\", \"Region\": \"ap-southeast-1\", \"Parameters
\": {\"PrefixListId\": [\"p1-03d7a44509b1be33f\"], \"AddCIDRBlock\": [{\"Cidr\":
\"10.0.1.0/24\", \"Description\": \"Value\"}, {\"Cidr\": \"10.0.2.0/24\", \"Description\":
```

```
\ "new networking team\"}],\ "RemoveCIDRBlock\" : [\ "10.0.0.0/24\"],\ "AddTags\" : [{\ "Key\" :  
\ "name_2\", \ "Value\" : \ "value_2\"}],\ "RemoveTags\" : [\ "Name\", \ "env\"],\ "ResizeMaxEntries  
\ ": [0]}}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、ModifyPrefixListParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2s1q5tjl0416n"  
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >  
ModifyPrefixListParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "DocumentName": "AWSManagedServices-ModifyPrefixList",  
  "Region": "ap-southeast-1",  
  "Parameters": {  
    "PrefixListId": ["p1-03d7a44509b1be33f"],  
    "AddCIDRBlock": [  
      {"Cidr": "10.0.1.0/24", "Description": "Value"},  
      {"Cidr": "10.0.2.0/24", "Description": "new networking team"}  
    ],  
    "RemoveCIDRBlock": ["10.0.0.0/24"],  
    "AddTags": [{"Key": "name_2", "Value": "value_2"}],  
    "RemoveTags": ["Name", "env"],  
    "ResizeMaxEntries": [0]  
  }  
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では ModifyPrefixListRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ModifyPrefixListRfc.json
```

4. ModifyPrefixListRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",  
  "ChangeTypeId" : "ct-2s1q5tjl0416n",
```

```
"Title" : "Modify managed prefix list"  
}
```

5. RFC を作成し、ModifyPrefixListRfc ファイルと ModifyPrefixListParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ModifyPrefixListRfc.json --execution-parameters file://ModifyPrefixListParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

リソース共有の作成

コンソールを使用したリソース共有の作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AWS RAM AMS リソース共有の作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

\"}]}にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc \  
  --change-type-id "ct-054ysptoo4gyk" \  
  --change-type-version "1.0" \  
  --title "Create resource share (managed automation)" \  
  --execution-parameters "{  
    "Region": "us-east-1",  
    "ResourceShareName": "MyResourceShare",  
    "Resources": [  
      "arn:aws:ec2:us-east-1:123456789012:vpc/vpc-12345"  
    ],  
    "Principals": [  
      "111122223333"  
    ],  
    "AllowExternalPrincipals": true,  
    "Priority": "Medium"  
  }"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では、CreateResourceShareParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-054ysptoo4gyk"  
  --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >  
  CreateResourceShareParams.json
```

2. CreateResourceShareParams ファイルを変更して保存します。

```
{  
  "Region": "us-east-1",  
  "ResourceShareName": "MyResourceShare",
```

```
"Resources": [  
  "arn:aws:ec2:us-east-1:123456789012:vpc/vpc-12345"  
],  
"Principals": [  
  "111122223333"  
],  
"AllowExternalPrincipals": true,  
"PermissionArns": [  
  "arn:aws:ram::aws:permission/AWSRAMDefaultPermissionVpc"  
],  
"Tags": [  
  {  
    "Key": "Environment",  
    "Value": "Production"  
  },  
  {  
    "Key": "Owner",  
    "Value": "TeamName"  
  }  
],  
"Priority": "Medium"  
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateResourceShareRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateResourceShareRfc.json
```

4. CreateResourceShareRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-054ysptoo4gyk",  
  "Title": "Create resource share"  
}
```

5. RFC を作成し、CreateResourceShareRfc ファイルと CreateResourceShareParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateResourceShareRfc.json --  
execution-parameters file://CreateResourceShareParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

ELB リスナールールを削除する

コンソールで ELB リスナールールを削除する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した ELB リスナールールの削除

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2qsgbfmrw92zw" --change-type-version
"1.0" --title "Delete ALB Listener Rule" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-DeleteListenerRule\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{\"ListenerRuleArn\": [\"arn:aws:elasticloadbalancing:us-east-1:123456789012:listener-
rule/app/my_alb/abc01234abc01234/abc01234abc01234/abc01234abc01234\"]}]}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では DeleteListenerRuleParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2qsgbfmrw92zw"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteListenerRuleParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-DeleteListenerRule",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "ListenerRuleArn": ["arn:aws:elasticloadbalancing:us-
east-1:123456789012:listener-rule/app/my_alb/abc01234abc01234/abc01234abc01234/
abc01234abc01234"]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では DeleteListenerRuleRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteListenerRuleRfc.json
```

4. DeleteListenerRuleRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-2qsgbfmrw92zw",
  "Title" : "Delete ALB Listener Rule"
}
```

5. RFC を作成し、DeleteListenerRuleRfc ファイルと DeleteListenerRuleParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file:///DeleteListenerRuleRfc.json --  
execution-parameters file:///DeleteListenerRuleParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

DHCP オプションセットを関連付ける

DHCP オプションセットをコンソールに関連付ける

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

DHCP オプションセットと CLI の関連付け

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0c2g2npbyyrny" --change-type-version
"1.0" --title "Associate DHCP Option Set" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-AssociateDhcpOptionSetWithVpc\", \"Region\": \"us-east-1\",
\"Parameters\": {\"VPCId\": \"vpc-1234abcd\", \"DHCPOptionsId\": \"dopt-1234abcd\"}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、AssociateDhcpOptionSetParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0c2g2npbyyrny"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
AssociateDhcpOptionSetParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-AssociateDhcpOptionSetWithVpc",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "VPCId": "vpc-1234abcd",
    "DHCPOptionsId": "dopt-1234abcd"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では AssociateDhcpOptionSetRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > AssociateDhcpOptionSetRfc.json
```

4. AssociateDhcpOptionSetRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
```

```
"ChangeTypeId" : "ct-0c2g2npbyyrny",  
"Title" : "Associate DHCP Option Set"  
}
```

5. RFC を作成し、AssociateDhcpOptionSetRfc ファイルと AssociateDhcpOptionSetParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AssociateDhcpOptionSetRfc.json --  
execution-parameters file://AssociateDhcpOptionSetParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

DNS スカベンジングの問題を修正する

コンソールでの DNS スカベンジングの問題の修復

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI での DNS スカベンジングの問題の修復

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3k67k1ld7cimj" --change-type-version "1.0"
  --title "Remediate DNS scavenging issue" --execution-parameters "{ \"DocumentName
  \": \"AWSManagedServices-UpdateClusterNodeRecordPermissions-Admin\", \"Parameters
  \": { \"ClusterCNOName\": [\"CLUSTER_CNO_NAME\"], \"ClusterNodeComputerNames\":
  [\"NODE_NAME_1\", \"NODE_NAME_2\"], \"ClusterVCONames\": [\"VCO_NAME_1\", \"VCO_NAME_2\"],
  \"Region\": \"us-east-1\" }
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、RemediateDnsScavengingParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3k67k1ld7cimj"
  --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
  RemediateDnsScavengingParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateClusterNodeRecordPermissions-Admin",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "ClusterCNOName": ["CLUSTER_CNO_NAME"],
    "ClusterNodeComputerNames": ["NODE_NAME_1", "NODE_NAME_2"],
    "ClusterVCONames": ["VCO_NAME_1", "VCO_NAME_2"]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では、RemediateDnsScavengingRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RemediateDnsScavengingRfc.json
```

4. RemediateDnsScavengingRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-3k67k1ld7cimj",
  "Title" : "Remediate DNS scavenging issue"
}
```

5. RFC を作成し、RemediateDnsScavengingRfc ファイルと RemediateDnsScavengingParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RemediateDnsScavengingRfc.json --
execution-parameters file://RemediateDnsScavengingParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

VPC ルートを削除する

コンソールを使用した VPC ルートの削除

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した VPC ルートの削除

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1nusoameibz5p" --change-type-version "1.0" --title "Delete VPC route" --execution-parameters "{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-DeleteRoute\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"RouteTableId\": \"rtb-1234abcd1234abcd\", \"DestinationCidrBlock\": \"10.0.0.0/8\"}}\"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では DeleteVPCRouteParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1nusoameibz5p" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > DeleteVPCRouteParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-DeleteRoute",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "RouteTableId": "rtb-1234abcd1234abcd",
    "DestinationCidrBlock": "10.0.0.0/8",
    "DestinationPrefixListId": "pl-abcd1234"
  }
}
```

```
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では DeleteVPCRouteRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteVPCRouteRfc.json
```

4. DeleteVPCRouteRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",  
  "ChangeTypeId" : "ct-1nusoameibz5p",  
  "Title" : "Delete VPC route"  
}
```

5. DeleteVPCRouteRfc ファイルと DeleteVPCRouteParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteVPCRouteRfc.json --execution-  
parameters file://DeleteVPCRouteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

DB インスタンスまたはクラスターのパラメータグループを更新する

コンソールを使用した DB インスタンスまたはクラスターのパラメータグループの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した DB インスタンスまたはクラスターのパラメータグループの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0p1oqt4xcp1cv" --change-type-version
"1.0" --title "Change Parameter Group" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateDBParameterGroup\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{\"DBArn\": \"arn:aws:rds:us-east-1:945533541580:db:database-1\", \"ParameterGroupName\":
\"minlz-parameter-group-mysql\"}}\"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、UpdateDBParameterGroupParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0p1oqt4xcp1cv"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateDBParameterGroupParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateDBParameterGroup",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "DBArn": "arn:aws:rds:us-east-1:945533541580:db:database-1",
  "ParameterGroupName": "minlz-parameter-group-mysql"
}
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では UpdateDBParameterGroupRFC.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateDBParameterGroupRFC.json
```

4. UpdateDBParameterGroupRFC.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-0p1oqt4xcp1cv",
  "Title" : "Change Parameter Group"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateDBParameterGroupRFC ファイルと UpdateDBParameterGroupParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateDBParameterGroupRFC.json --
execution-parameters file://UpdateDBParameterGroupParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

Site-to-Site VPN トンネルを置き換える

Site-to-Site VPN トンネルをコンソールに置き換える

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

Site-to-Site VPN トンネルを CLI に置き換える

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2sav5hzk5twk4" --change-type-version "1.0"
--title "Replace S2S VPN Tunnel" --execution-parameters "{\"Region\": \"us-east-1\",
\"VpnId\": \"vpn-01234567890abcdef\", \"VpnTunnelOutsideIpAddress\": \"203.0.113.1\",
\"ApplyPendingMaintenance\": true, \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、それを ReplaceS2SVpnTunnelParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2sav5hzk5twk4"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ReplaceS2SVpnTunnelParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-east-1",
  "VpnId": "vpn-01234567890abcdef",
  "VpnTunnelOutsideIpAddress": "203.0.113.1",
  "ApplyPendingMaintenance": true,
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では、それを `ReplaceS2SVpnTunnelRFC.json` と命名します。

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ReplaceS2SVpnTunnelRFC.json
```

4. `ReplaceS2SVpnTunnelRFC.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2sav5hzk5twk4",
  "Title": "Replace S2S VPN Tunnel"
}
```

5. RFC を作成し、`ReplaceS2SVpnTunnelRFC` ファイルと `ReplaceS2SVpnTunnelParams` ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ReplaceS2SVpnTunnelRFC.json --
execution-parameters file://ReplaceS2SVpnTunnelParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

DHCP オプションセットを作成する

コンソールで DHCP オプションセットを作成する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した DHCP オプションセットの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-18rsjua1zosvo" --change-type-version "1.0" --
title "AWSManagedServices-CreateDhcpOptionSet" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-CreateDhcpOptionSet\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": {\"DomainName\": \"example.com\", \"DomainNameServers\": [\"1.2.3.4\"], \"NtpServers
\": [\"4.5.6.7\"], \"NetBiosNameServers\": [\"3.4.5.6\"], \"NetBiosNodeType\": \"1\",
\"Ipv6AddressPreferredLeaseTime\": \"140\", \"DhcpOptionSetName\": \"optionsetname\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、CreateDhcpOptionSetParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-18rsjua1zosvo"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateDhcpOptionSetParams.json
```

2. 実行 CreateDhcpOptionSetParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DomainName": "example.com",
  "DomainNameServers": [
    "1.2.3.4"
  ],
  "NtpServers": [
    "4.5.6.7"
  ],
  "NetBiosNameServers": [
    "3.4.5.6"
  ],
  "NetBiosNodeType": "1",
  "Ipv6AddressPreferredLeaseTime": "140",
  "DhcpOptionSetName": "optionsetname"
  "Priority": "Medium"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では CreateDhcpOptionSet.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateDhcpOptionSet.json
```

4. CreateDhcpOptionSet.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-18rsjua1zosvo",
  "Title": "Create Dhcp Option Set"
}
```

5. CreateDhcpOptionSet ファイルと CreateDhcpOptionSetParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateDhcpOptionSet.json --execution-parameters file://CreateDhcpOptionSetParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

VPCs [「仮想プライベートクラウド \(VPC\)」](#) を参照してください。

ELB リスナールールを作成する

コンソールを使用した ELB リスナールールの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した ELB リスナー規則の作成

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-18weo4vv83ynk" --change-type-version "1.0" --title "Create ALB Listener Rule" --execution-parameters {"\DocumentName\":"AWSManagedServices-CreateListenerRule","\Parameters\":{"\ListenerArn\":["LISTENER_ARN"],"\Conditions\":{"\Field\":"path-pattern","\PathPatternConfig\":{"\Values\":["/img/*"]}}},"\RuleType\":["redirect"],"\Priority\":["200"],"\TargetGroups\":["{}"],"\TargetGroupStickinessConfig\":[""],"\TargetGroupStickinessDuration\":[""],"\RedirectProtocol\":["HTTP"],"\RedirectPort\":["85"],"\RedirectHost\":["www.example.com"],"\RedirectPath\":["/new-path"],"\RedirectQuery\":["page1"],"\RedirectStatusCode\":["HTTP_301"]},"\Region\":"REGION"}
```

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-18weo4vv83ynk" --change-type-version "1.0" --title "Create ALB Listener Rule" --execution-parameters {"\DocumentName\":"AWSManagedServices-CreateListenerRule","\Parameters\":{"\ListenerArn\":["LISTENER_ARN"],"\Conditions\":{"\Field\":"path-pattern","\PathPatternConfig\":{"\Values\":["/img/*"]}}},"\RuleType\":["forward"],"\Priority\":["125"],"\TargetGroups\":{"\TargetGroupArn\":"TARGET_GROUP_ARN","\Weight\":"20"}},"\TargetGroupStickinessConfig\":["Enabled"],"\TargetGroupStickinessDuration\":["15"],"\RedirectProtocol\":[""],"\RedirectPort\":[""],"\RedirectHost\":[""],"\RedirectPath\":[""],"\RedirectQuery\":[""],"\RedirectStatusCode\":[""]},"\Region\":"REGION"}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを validateCreateRule.Actions.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-18weo4vv83ynk" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > validateCreateRule.Actions.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

すべてのパラメータの例:

```
{
```

```

"DocumentName": "AWSManagedServices-CreateListenerRule",
"Region": "us-west-2",
"Parameters": {
  "ListenerArn": ["LISTENER_ARN"],
  "Conditions": [{"Field": "host-header", "HostHeaderConfig": {"Values": [
    ["example.com"]]}]}],
  "RuleType": ["forward"],
  "Priority": ["200"],
  "TargetGroups": [{"TargetGroupArn": "TARGET_GROUP_ARN", "Weight": "100"}],
  "TargetGroupStickinessConfig": ["Enabled"],
  "TargetGroupStickinessDuration": ["86400"],
  "RedirectProtocol": [""],
  "RedirectPort": [""],
  "RedirectHost": [""],
  "RedirectPath": [""],
  "RedirectQuery": [""],
  "RedirectStatusCode": [""],
  "Priority": "High"
}
}

```

```

{
"DocumentName": "AWSManagedServices-CreateListenerRule",
"Parameters": {
  "ListenerArn": [
    "LISTENER_ARN"
  ],
  "Conditions": [
    [{"Field": "path-pattern", "PathPatternConfig": {"Values": ["/img/*"]}}]
  ],
  "RuleType": [
    "forward"
  ],
  "Priority": [
    "125"
  ],
  "TargetGroups": [
    [{"TargetGroupArn": "TARGET_GROUP_ARN", "Weight": "20"}]
  ],
  "TargetGroupStickinessConfig": [
    "Enabled"
  ],
  "TargetGroupStickinessDuration": [

```

```
    "15"  
  ],  
  "RedirectProtocol": [  
    ""  
  ],  
  "RedirectPort": [  
    ""  
  ],  
  "RedirectHost": [  
    ""  
  ],  
  "RedirectPath": [  
    ""  
  ],  
  "RedirectQuery": [  
    ""  
  ],  
  "RedirectStatusCode": [  
    ""  
  ]  
},  
"Region": "REGION",  
"Priority": "High"  
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では `CreateListenerRuleRfc.json`:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateListenerRuleRfc.json
```

4. `CreateListenerRuleRfc.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-18weo4vv83ynk",  
  "Title": "Create ALB Listener Rule"  
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと `validateCreateRule` ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateListenerRuleRfc.json --
execution-parameters file://validateCreateRule.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

AWS Application Load Balancer の詳細については、[Application Load Balancer とは](#)を参照してください。

VPC エンドポイントポリシーの更新

VPC エンドポイントポリシーの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した VPC エンドポイントポリシーの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-128mp7mbxobd0" --change-type-version "1.0" --title "Update VPC Endpoint Policy" --execution-parameters "{\"Region\": \"us-east-1\", \"VpcEndpointId\": \"vpce-1a2b3c4d5e6f7g8h9\", \"PolicyDocument\": \"Example endpoint policy\", \"PolicyAction\": \"Append\", \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、UpdateVPCEndpointPolicyParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-128mp7mbxobd0" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateVPCEndpointPolicyParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-east-1",
  "VpcEndpointId": "vpce-1a2b3c4d5e6f7g8h9",
  "PolicyDocument": "Example endpoint policy"
  "PolicyAction" : "Append",
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json
```

4. UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-128mp7mbxobd0",
  "Title": "Update VPC Endpoint Policy"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateVPCEndpointPolicyRFC ファイルと UpdateVPCEndpointPolicyParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json --
execution-parameters file://UpdateVPCEndpointPolicyParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは手動の変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、手動変更タイプの RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

NAT ゲートウェイの削除 (マネージドオートメーション)

このオペレーションは、正常に完了する前に、手動によるレビューと承認が必要です。

NAT ゲートウェイの削除 (マネージドオートメーション)

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した NAT ゲートウェイの削除 (マネージドオートメーション)

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1rexstryxye1b" --change-type-version "1.0"
--title "Delete NAT Gateway" --execution-parameters "{\"Region\": \"us-east-1\",
\"NatGatewayId\": [\"nat-1234567890abcdef0\"], \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. 実行パラメータの JSON スキーマを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、DeleteNATGatewayParams.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1rexstryxye1b"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteNATGatewayParams.json
```

2. DeleteNATGatewayParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-west-1",
```

```
"NatGatewayId": "nat-1234567890abcdef0"  
"Priority": "High"  
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、DeleteNATGatewayRfc.json.

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteNATGatewayRfc.json
```

4. DeleteNATGatewayRfc.json ファイルを変更して保存します。

JSON 拡張機能の内部引用符はバックスラッシュ (\) ExecutionParameters でエスケープする必要があります。例:

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-1rexstryxye1b",  
  "Title": "Delete-NAT-Gateway"  
}
```

5. RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteNATGatewayRfc.json --execution-parameters file://DeleteNATGatewayParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは手動の変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、手動変更タイプの RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

EC2 インスタンスメタデータサービス (IMDS) リージョン設定の更新

コンソールを使用した EC2 インスタンス IMDS リージョン設定の更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した EC2 インスタンス IMDS リージョン設定の更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実

行パラメータ用) のいずれかを使用し、2つのファイルを入力としてcreate-rfcコマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2o1knqwx39mkc" --change-type-version
"1.0" --title "Update IMDS region-level default settings" --execution-parameters
{"Region": "us-west-2", "HttpEndpoint": "Enabled", "HttpTokens": "Required",
"InstanceMetadataTags": "Enabled", "HttpPutResponseHopLimit": 1, "Priority":
"High"}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では、UPdateEC2ImdsRegionParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2o1knqwx39mkc"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateEC2ImdsRegionParams.json
```

2. UPdateEC2ImdsRegionParams ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-west-2",
  "HttpEndpoint": "Enabled",
  "HttpTokens": "Required"
  "InstanceMetadataTags" : "Enabled",
  "HttpPutResponseHopLimit": 1,
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では、UPdateEC2ImdsRegionRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UPdateEC2ImdsRegionRfc.json
```

4. UPdateEC2ImdsRegionRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2o1knqwx39mkc",
  "Title": "Update IMDS region-level default settings"
}
```

5. RFC を作成し、UPdateEC2ImdsRegionRfc ファイルと UPdateEC2ImdsRegionParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UPdateEC2ImdsRegionRfc.json --
execution-parameters file://UPdateEC2ImdsRegionParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

インスタンスメタデータオプションのデフォルト値は、それぞれのアカウントレベルで設定できます AWS リージョン。インスタンスが起動すると、インスタンスメタデータオプションは自動的にアカウントレベルの値に設定されます。これらの値は起動時に変更できます。アカウントレベルのデフォルト値は既存のインスタンスには影響しません。Amazon EC2 IMDS 設定の詳細については、[「インスタンスメタデータオプションを設定する場所」](#)を参照してください。

コンピュータオブジェクトの SPN を作成する

コンソールを使用して AMS 管理 AD からコンピュータオブジェクトの SPN を作成する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して AMS 管理 AD からコンピュータオブジェクトの SPN を作成する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0ulaleq7ohuyq" --change-type-version "1.0"
--title "Create service principal names" --execution-parameters "{ \"DocumentName\":
  \"AWSManagedServices-CreateADSPN-Admin\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": { \"ServiceType\": \"MSSQLSvc\", \"Hostnames\": \"server1,server2\",
  \"ServiceAccountName\": \"gmsa_sql\" } }"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では ComputerObjectCreateSpnParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0ulaleq7ohuyq"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ComputerObjectCreateSpnParams.json
```

ComputerObjectCreateSpnParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateADSPN-Admin",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "ServiceType": ["HOST"],
    "Hostnames": "server1",
    "ServiceAccountName": "gmsa_host",
    "Port": ["1433"],
    "ApplicationAccountId": "123456789012"
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ComputerObjectCreateSpnRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ComputerObjectCreateSpnRfc.json
```

3. ComputerObjectCreateSpnRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0ulaleq7ohuyq",
  "Title": "Create service principal names"
}
```

4. ComputerObjectCreateSpnRfc ファイルと ComputerObjectCreateSpnParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ComputerObjectCreateSpnRfc.json --
execution-parameters file://ComputerObjectCreateSpnParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- マルチアカウントランディングゾーン (MALZ) の場合は、共有サービスアカウントでこの変更タイプを使用します。
- Directory Service の詳細については、[「Directory Service 管理者ガイド」](#)を参照してください。

ターゲットグループを削除する (マネージドオートメーション)

コンソールでターゲットグループを削除する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

Note

手動 CTs を使用する場合、AMS では ASAP スケジューリングオプション (コンソールで ASAP を選択し、API/CLI で開始時刻と終了時刻を空白のままにする) を使用することをお勧めします。これらの CTs では、AMS オペレータが RFC を調べ、承認して実行する前にお客様と通信する必要があるためです。これらの RFCs スケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用してターゲットグループを削除する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0akjahmgqhu4u" --change-type-version "1.0"
--title "Delete Target Group" --execution-parameters "{\"Region\": \"us-west-2\",
\"TargetGroupArns\": [\"arn:aws:elasticloadbalancing:us-west-2:123456789012:targetgroup/
my-targets/73e2d6bc24d8a067\"], \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では TgDeleteParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0akjahmgqhu4u" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > TgDeleteParams.json
```

2. TgDeleteParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-west-2",
  "TargetGroupArns": "arn:aws:elasticloadbalancing:us-
west-2:123456789012:targetgroup/my-targets/73e2d6bc24d8a067"
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレートを TgDeleteRfc.json:

```
aws amscm create-rtc --generate-cli-skeleton > TgDeleteRfc.json
```

4. TgDeleteRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0akjahmgqhu4u",
  "Title": "Delete Target Group"
}
```

5. TgDeleteRfc ファイルと TgDeleteParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rtc --cli-input-json file://TgDeleteRfc.json --execution-
parameters file://TgDeleteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは手動の変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があり、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、手動変更タイプの RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

- ターゲットグループを削除すると、関連するヘルスチェックも削除されます。

- ターゲットグループを削除しても、登録されたターゲットには影響しません。
- ターゲットグループの詳細については、[「ELB ターゲットグループ」](#)を参照してください。

Application Load Balancer (ALB) を作成する

コンソールを使用した ALB の作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した ALB の作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm --profile saml --region us-east-1 create-rfc --change-type-id
"ct-111r1yayblnw4" --change-type-version "3.0" --title 'Create ALB' --description
"My Test ALB" --execution-parameters ""{"Description": "Test ALB", "VpcId":
"VPC_ID", "Name": "TestStack", "StackTemplateId": "stm-sd7uv50000000000",
"TimeoutInMinutes": 360, "LoadBalancer": {"SecurityGroups": ["SG_ID"], "SubnetIds
": ["SUBNET_ID", "SUBNET_ID"]}, "Listener1": {"Port": "443", "Protocol":
"HTTPS"}}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-111r1yayblnw4" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateAlbParams.json
```

2. CreateAlbParams ファイルを変更して保存します。例えば、次のようになります。

```
{
  "Description": "ALB-Create",
  "VpcId": "VPC_ID",
  "Name": "My-ALB",
  "StackTemplateId": "stm-sd7uv50000000000",
  "TimeoutInMinutes": 360,
  "LoadBalancer": {
    "SecurityGroups": ["SG_ID"],
    "SubnetIds": ["SUBNET_ID", "SUBNET_ID"]
  },
  "Listener1": {
    "Port": "443",
    "Protocol": "HTTPS"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateAlbRfc.json
```

4. CreateAlbRfc.json ファイルを変更して保存します。例えば、次のようになります。

```
{
```

```
"ChangeTypeVersion":    "3.0",  
"ChangeTypeId":        "ct-111r1yayblnw4",  
"Title":               "ALB-Create-RFC"  
}
```

5. CreateAlbRfc ファイルと CreateAlbParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateAlbRfc.json --execution-  
parameters file://CreateAlbParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

バージョン 3.0 以降では、カスタマイズされたアラームしきい値を使用して 4 つの CloudWatch アラームを設定することもできます。

Note

ポートを開いてすべてのロードバランサーリソースを関連付けるには、[管理 | 高度なスタックコンポーネント | セキュリティグループ | RFC の更新](#)を送信します。

AWS Application Load Balancer の詳細については、[Application Load Balancer とは](#)を参照してください。

Application Load Balancer ターゲットグループを作成するには、[「ターゲットグループ | 作成 \(ALB の場合\)」](#)を参照してください。

Application Load Balancer (ALB) を更新する

コンソールを使用した ALB の更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加の設定領域を開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の Run 出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した ALB の更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title Test-Update-ALB --change-type-id ct-1a1zzgi2nb83d
--change-type-version 3.0 --execution-parameters '{"Description": "Updating Test
ALB", "VpcId": "VPC_ID", "StackTemplateId": "stm-sd7uv5000000000000", "Name": "Test-
Application-LoadBalancer", "TimeoutInMinutes": 360, "Parameters":
{"TargetGroupHealthCheckPath": "/myAppHealth"}}'
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-111r1yayblnw4" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateAlbParams.json
```

2. UpdateAlbParams ファイルを変更して保存します。例えば、次のようになります。

```
{
  "Description":      "ALB-Update",
  "VpcId":            "VPC_ID",
  "Name":             "My-ALB",
  "StackTemplateId": "stm-sd7uv5000000000000",
  "TimeoutInMinutes" : 360,
  "Parameters": {
    "LoadBalancerSecurityGroups": [
      "sg-1234567890abcdef0"
    ],
    "LoadBalancerSubnetIds": [
      "subnet-1234567890abcdef0",
      "subnet-1234567890abcdef1"
    ],
    "LoadBalancerDeletionProtection": "false",
    "LoadBalancerIdleTimeout": "60",
    "Listener1Port": "443",
    "Listener1Protocol": "HTTPS",
    "Listener1SSLCertificateArn": "arn:aws:acm:ap-
southeast-2:012345678912:certificate/e23c3545-e92d-4542-83b8-63483505b5a5",
    "Listener1SSLPolicy": "ELBSecurityPolicy-TLS-1-2-Ext-2018-06",
    "Listener2Port": "8080",
    "Listener2Protocol": "HTTP",
    "TargetGroupHealthCheckInterval": "10",
    "TargetGroupHealthCheckPath": "/thing/index.html",
    "TargetGroupHealthCheckPort": "8080",
    "TargetGroupHealthCheckProtocol": "HTTP",
    "TargetGroupHealthCheckTimeout": "10",
    "TargetGroupHealthyThreshold": "2",
    "TargetGroupUnhealthyThreshold": "10",
    "TargetGroupValidHTTPCode": "200",
    "TargetGroupDeregistrationDelayTimeout": "300",
    "TargetGroupSlowStartDuration": "30",
    "TargetGroupCookieExpirationPeriod": "20"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateAlbRfc.json
```

4. UpdateAlbRfc.json ファイルを変更して保存します。例えば、次のようになります。

```
{  
  "ChangeTypeVersion":    "3.0",  
  "ChangeTypeId":        "ct-111r1yayblnw4",  
  "Title":                "ALB-Update-RFC"  
}
```

5. RFC を作成し、UpdateAlbRfc ファイルと UpdateAlbParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateAlbRfc.json --execution-  
parameters file://UpdateAlbParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

この変更タイプはバージョン 3.0 で、ALB 変更タイプの作成 (ct-111r1yayblnw4) のバージョン 3.0 で使用できます。

AWS Application Load Balancer の詳細については、[Application Load Balancer とは](#)を参照してください。

リスナーを作成する

コンソールを使用した ALB または NLB のリスナーの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した ALB または NLB のリスナーの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email\": {"EmailRecipients\": ["email@example.com\n"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws --profile saml --region us-east-1 amscm create-rfc --change-type-id
"ct-14yjom3kvpinu" --change-type-version "2.0" --title "TITLE" --execution-parameters
{"Description\":"DESCRIPTION", "VpcId\":"VPC_ID", "StackTemplateId\":"stm-
u5n0r6aacdvdwthhm", "Name\":"NAME", "TimeoutInMinutes\":60, "Parameters\":
{"LoadBalancerArn\":"LB-ARN", "DefaultActionTargetGroupArn\":"TARGET-GROUP-ARN",
"Port\":"80", "Protocol\":"HTTP"}}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では CreateListenerParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-14yjom3kvpinu" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateListenerParams.json
```

2. CreateListenerParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description":      "Listener-Create",
  "VpcId":            "VPC_ID",
  "StackTemplateId": "stm-u5n0r6aacdvdwthhm",
  "Name":             "My-Listener",

  "Parameters": {
    "LoadBalancerArn":      ARN,
    "DefaultActionTargetGroupArn": ARN,
    "Port":                 PORT,
    "Protocol":             Protocol"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateListenerRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateListenerRfc.json
```

4. CreateListenerRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId":     "ct-14yjom3kvpinu",
  "Title":            "Listener-Create-RFC"
}
```

5. CreateListenerRfc ファイルと CreateListenerParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateListenerRfc.json --execution-
parameters file://CreateListenerParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

次のステップ: 管理を送信する | その他 | その他 | 変更タイプを更新してポートを開き、セキュリティグループを関連付けるには、[「その他 | その他のリクエスト」](#)を参照してください。

ヒント

Note

最大 4 つのターゲット IDs、ポート、アベイラビリティゾーンを指定できます。

高可用性 1 層スタック: 作成

コンソールを使用した高可用性 1 層スタックの作成

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した高可用性 1 層スタックの作成

仕組み:

1. Template Create メソッドを使用し (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用)、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com

\"]}]}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、CreateOnetierStackParams.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-09t6q7j9v5hrn"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateOnetierStackParams.json
```

2. スキーマを変更し、必要に応じて##を置き換えます。

```
{
  "Description":      "HA-One-Tier-Stack",
  "Name":              "One-Tier-Stack",
  "TimeoutInMinutes": "360",
  "VpcId":             "VPC_ID",
  "ApplicationLoadBalancer": {
    "SubnetIds": [
      "SUBNET_ID",
      "SUBNET_ID"
    ]
  },
  "AutoScalingGroup": {
    "AmiId": "AMI-ID"
    "SubnetIds": [
      "SUBNET_ID",
      "SUBNET_ID"
    ]
  }
}
```

3. CreateRfc JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。例では CreateOnetierStackRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateOnetierStackRfc.json
```

4. 必要に応じて RFC テンプレートを変更し、保存します。スケジュールされた RFC の開始時刻と終了時刻をリセットするか、ASAP RFC の休暇を取ります。

```
{
  "ChangeTypeVersion": 2.0,
  "ChangeTypeId": "ct-09t6q7j9v5hrn",
  "Title": "HA-One-Tier-RFC",
  "RequestedStartTime": "2019-04-28T22:45:00Z",
  "RequestedEndTime": "2019-04-28T22:45:00Z"
}
```

5. CreateOnetierStackRfc.json ファイルと CreateOnetierStackParams.json 実行パラメータファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateOnetierStackRfc.json --
execution-parameters file://CreateOnetierStackParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

これは、特に UserData を追加する場合、リソースの大規模なプロビジョニングです。ロードバランサーの Amazon リソース名 (ARN) は、RFC 実行出力で返された Load Balancer スタック ID で検索することで、EC2 コンソールのロードバランサーページから確認できます。

IAM エンティティまたはポリシーの作成 (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した IAM リソースの作成 (マネージドオートメーション)

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した IAM リソースの作成 (マネージドオートメーション)

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

Note

ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 20,480 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ファイルに 20,480 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用に関いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3dpd8mdd9jn1r" --change-type-version "1.0"
--title "TestIamCreate" --execution-parameters "{\"UseCase\": \"IAM_RESOURCE_DETAILS\",
IAM Role\": [{\"RoleName\": \"ROLE_NAME\", \"TrustPolicy\": \"TRUST_POLICY\",
\"RolePermissions\": \"ROLE_PERMISSIONS\"}], \"Operation\": \"Create\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では `CreatelamResourceParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3dpd8mdd9jn1r"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateIamResourceParams.json
```

2. CreatelamResourceParams ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "UseCase": "IAM_RESOURCE_DETAILS",
  "IAM Role": [
    {
      "RoleName": "codebuild_ec2_test_role",
      "TrustPolicy": {
        "Version": "2008-10-17",
        "Statement": [
          {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
              "Service": "codebuild.amazonaws.com"
            },
            "Action": "sts:AssumeRole"
          }
        ]
      },
      "RolePermissions": {
        "Version": "2012-10-17",
        "Statement": [
          {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
              "ec2:DescribeInstanceStatus"
            ],
            "Resource": "*"
          }
        ]
      }
    }
  ],
  "Operation": "Create"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreatelamResourceRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateIamResourceRfc.json
```

4. CreatelamResourceRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-3dpd8mdd9jn1r",  
  "Title": "Create IAM Role"  
}
```

5. CreatelamResourceRfc ファイルと CreatelamResourceParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateIamResourceRfc.json --  
execution-parameters file://CreateIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- アカウントに IAM ロールがプロビジョニングされたら、フェデレーションソリューションでロールをオンボードする必要があります。
- ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 20,480 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ポリシーに 20,480 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用に関いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。
- これは手動の変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります。RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、手動変更タイプの RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。
- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[マネージドポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

カスタム CloudFormation スタックのロールバックを続行する

コンソールを使用して CloudFormation 取り込みスタックの失敗した更新をロールバックする

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して CloudFormation 取り込みスタックの失敗した更新をロールバックし続ける

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パ

ラメータ用) のいずれかを使用し、2つのファイルを入力としてcreate-rfcコマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-32r1igwrwag4i" --change-type-version "1.0"
--title "Continue Update Rollback" --execution-parameters "{\"StackId\": \"STACK_ID\",
\"Region\": \"REGION\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ContinueRollbackParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-32r1igwrwag4i"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ContinueRollbackParams.json
```

2. ContinueRollbackParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "StackId": "stack-a1b2c3d4e5f67890e",
  "Region": "us-east-1",
  "Priority": "High"
}
```

3. CreateRfc の JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ContinueRollbackRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ContinueRollbackRfc.json
```

4. ContinueRollbackRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-32r1igwrwag4i",
  "Title": "Continue Update Rollback"
}
```

5. ContinueRollbackRfc ファイルと実行パラメータファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ContinueRollbackRfc.json --execution-
parameters file://ContinueRollbackParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

詳細については、[「更新のロールバックを続ける」](#)を参照してください。

VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する

コンソールを使用して VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1pqxczuw5uwu6" --change-type-version "1.0"
--title "AWSManagedServices-ManageSubnetPublicIpv4AutoAssign" --execution-parameters
{"\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-ManageSubnetPublicIpv4AutoAssign\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"SubnetId\": \"subnet-0a1b2c3d4e5f67890\", \"MapPublicIpOnLaunch\": true, \"AcknowledgeNetworkImpact\": [\"Yes\"]}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、ManageSubnetAutoAddressParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1pqxczuw5uwu6"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ManageSubnetAutoAddressParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-ManageSubnetPublicIpv4AutoAssign",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "SubnetId": "subnet-0a1b2c3d4e5f67890",
    "MapPublicIpOnLaunch": true,
    "AcknowledgeNetworkImpact": [
      "Yes"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では、ManageSubnetAutoAddressRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ManageSubnetAutoAddressRfc.json
```

4. ManageSubnetAutoAddressRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-1pqxczuw5uwu6",
  "Title" : "ManageSubnetAutoAddress"
}
```

5. ManageSubnetAutoAddressRfc ファイルと ManageSubnetAutoAddressParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ManageSubnetAutoAddressRfc.json --
execution-parameters file://ManageSubnetAutoAddressParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

VPCs [VPCsとサブネットの IP アドレス指定](#)」を参照してください。

スケジュールの追加

コンソールを使用した AMS Resource Scheduler スケジュールの追加

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AMS Resource Scheduler スケジュールの追加

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2bxelbn765ive" --change-type-version
"1.0" --title "Add a schedule for AMS Resource Scheduler" --execution-parameters
{"\DocumentName\":"AWSManagedServices-AddOrUpdateSchedule","\Region\":"
\us-east-1","\Parameters\":{"Action\":["add"],"Name\":["Schedule01"],
>Description\":["Test schedule"],"Hibernate\":["true"],"Enforced\":"
[false"],"OverrideStatus\":["running"],"Periods\":["period01","\period02"],
\RetainRunning\":["false"],"StopNewInstances\":["true"],"SSMMaintenanceWindow\":"
[window01"],"TimeZone\":["Australia/Sydney"],"UseMaintenanceWindow\":["true"],
\UseMetrics\":["false"]}}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では AddScheduleParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2bxelbn765ive" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > AddScheduleParams.json
```

2. AddScheduleParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "DocumentName" : "AWSManagedServices-AddOrUpdateSchedule",
  "Region" : "us-east-1",
  "Parameters" : {
    "Action" : ["add"],
    "Name" : ["Schedule01"],
    "Description" : ["Test schedule"],
    "Hibernate" : ["true"],
    "Enforced" : ["false"],
    "OverrideStatus" : ["running"],
    "Periods" : [
      "period01",
      "period02"
    ],
    "RetainRunning" : ["false"],
    "StopNewInstances" : ["true"],
```

```
"SSMMaintenanceWindow" : ["window01"],
"TimeZone" : ["Australia/Sydney"],
"UseMaintenanceWindow" : ["true"],
"UseMetrics" : ["false"]
}
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では AddScheduleRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > AddScheduleRfc.json
```

4. AddScheduleRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
"ChangeTypeVersion": "1.0",
"ChangeTypeId": "ct-2bxelbn765ive",
"Title": "Add a schedule for AMS Resource Scheduler"
}
```

5. RFC を作成し、AddScheduleRfc ファイルと AddScheduleParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AddScheduleRfc.json --execution-parameters file://AddScheduleParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- メンテナンスウィンドウ名を「mw-」で開始しないでください。
- 詳細については、[「AMS Resource Scheduler の仕組み」](#)を参照してください。
- AMS Resource Scheduler は AWS Instance Scheduler に基づいています。詳細については、[「AWS Instance Scheduler」](#)を参照してください。

EBS スナップショットの削除 (マネージドオートメーション)

削除するスナップショットに関する追加のヘルプや通信が必要な場合は、[aws amscm delete-snapshots](#) を使用します。

コンソールを使用した EBS スナップショットの削除 (マネージドオートメーション)

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EBS スナップショットの削除 (レビューが必要)

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1vrnixswq1uwf" --change-type-version "1.0" --
title "Delete EBS Snapshot (managed automation)" --execution-parameters "{\"SnapshotIds
\": [\"snap-0a1b2c3d4e5f67890\", \"snap-1a2b3c4d5e6f78901\"], \"AMI\": \"No\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Priority\": \"Medium\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では DeleteEbsSnpshtRrParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1vrnixswq1uwf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteEbsSnpshtRrParams.json
```

2. DeleteEbsSnpshtRrParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "SnapshotIds": [
    "snap-0a1b2c3d4e5f67890",
    "snap-1a2b3c4d5e6f78901"
  ],
  "AMI": "No",
  "Region": "us-east-1",
  "Priority": "Medium"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では DeleteEbsSnpshtRrRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteEbsSnpshtRrRfc.json
```

4. DeleteEbsSnpshtRrRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1vrnixswq1uwf",
  "Title": "EBS-Snapshot-Delete-RR-RFC"
}
```

5. RFC を作成し、DeleteEbsSnpshtRrRfc ファイルと DeleteEbsSnpshtRrParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteEbsSnpshtRrRfc.json --
execution-parameters file://DeleteEbsSnpshtRrParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EBS スナップショットの詳細については、[「Amazon EBS スナップショット」](#)を参照してください。

SNS トピックを更新する

コンソールで SNS トピックを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI で SNS トピックを更新する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

INLINE CREATE (最小パラメータ):

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0zzf0fjz76jmb" --change-type-version "1.0"
--title "Update SNS Topic" --execution-parameters "{\"TopicArn\": \"arn:aws:sns:us-
east-1:123456789101:My-SNS-Topic\", \"Priority\": \"Medium\", \"Parameters\":
{\"DisplayName\": \"My-SNS-Topic\", \"KmsMasterKeyId\": \"arn:aws:kms:us-
east-1:123456789101:key/cfe0542d-3be9-4166-9eac-d0cd6af61445\"}}"
```

テンプレート作成 (すべてのパラメータ):

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、SnsUpdateParams.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3rcl9u1k017wu" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > SnsUpdateParams.json
```

2. SnsUpdateParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "TopicArn": "arn:aws:sns:us-east-1:123456789101:Test-Stack",
  "Parameters": {
    "DisplayName": "My-Test-Stack",
    "DeliveryPolicy": "{\"http\":{\"defaultHealthyRetryPolicy\":{\"minDelayTarget\":20,
\"maxDelayTarget\":20,\"numRetries\":3,\"numMaxDelayRetries\":0,
\"numNoDelayRetries\":0,\"numMinDelayRetries\":0,\"backoffFunction\":
\"linear\"},\"disableSubscriptionOverrides\":false,\"defaultRequestPolicy\":
{\"headerContentType\":\"text/plain; charset=UTF-8\"}}}",
    "DataProtectionPolicy": "{\"Name\":\"__example_data_protection_policy\",
\"Description\":\"Exampledataprotectionpolicy\", \"Version\":
\"2021-06-01\", \"Statement\": [{\"DataDirection\":\"Inbound\", \"Principal\":
[\"arn:aws:iam::123456789101:user/ExampleUser\"], \"DataIdentifier\":
[\"arn:aws:dataprotection::aws:data-identifier/CreditCardNumber\"], \"Operation\":
[\"Deidentify\":{\"MaskConfig\":{\"MaskWithCharacter\":\"#\"}}]}]}",
    "KmsMasterKeyARN": "arn:aws:kms:ap-southeast-2:123456789101:key/
bb43bd18-3a75-482e-822d-d0d3a5544dc8",
    "TracingConfig": "Active"
  },
  "Priority": "Medium"
```

```
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを SnsUpdateRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > SnsUpdateRfc.json
```

4. SnsUpdateRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-0zzf0fjz76jmb",  
  "Title": "Update-SNS-RFC"  
}
```

5. RFC を作成し、SnsUpdate Rfc ファイルと SnsUpdateParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://SnsUpdateRfc.json --execution-  
parameters file://SnsUpdateParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

AWS Simple Notification Service (SNS) の詳細については、[「Amazon Simple Notification Service」](#)を参照してください。[Amazon SNS の開始方法も参照してください。](#)

S3 アクセスポイントを作成する

コンソールを使用した S3 アクセスポイントの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した S3 アクセスポイントの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Add Static Route" --description="Create an access point
and associate it with the specified S3 bucket." --ct-id="ct-1elb1vtam0ka5" --ct-
version="1.0" --input-params="{\"Access Point Name\": \"accesspoint1\", \"Bucket Name\":
\"s3bucket1\", \"Network Origin\": \"VPC\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateS3AccessPointParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1elb1vtam0ka5"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateS3AccessPointParams.json\"Access Point Policy\": \"Example access point
policy\"
```

2. CreateS3AccessPointParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "Access Point Name": "accesspoint1",
  "Bucket Name": "s3bucket1",
  "Network Origin": "VPC",
  "Vpc Id": "vpc-12345678"
  "Access Point Policy": "Example access point policy"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreateS3AccessPointRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateS3AccessPointRfc.json
```

4. CreateS3AccessPointRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "1.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-1e1b1vtam0ka5",
  "Title":                "S3-Accesspoint-Create-RFC"
}
```

5. CreateS3AccessPointRfc ファイルと CreateS3AccessPointParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateS3AccesspointRfc.json --
execution-parameters file://CreateS3AccesspointParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon S3 の詳細については、[「Amazon Simple Storage Service ドキュメント」](#)を参照してください。

カスタム RDS パラメータグループの作成

コンソールを使用した管理者アクセスのリクエスト

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した管理者アクセスのリクエスト

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3da2lxapopb86" --change-type-version "1.0" --title "Create Custom RDS Parameter Group" --execution-parameters "{\"ParameterGroupName\": \"my-db-parameter-group\", \"ParameterGroupFamily\": \"mysql5.6\", \"Description\": \"A meaningful description of the parameter group\", \"Priority\": \"Medium\", \"Parameters\": [{\"ParameterName\": \"max_connections\", \"ParameterValue\": \"100\"}], \"RDSInstanceName\": \"my-test-db\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では `RDSCreateParameterGroupParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3da2lxapopb86" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > RDSCreateParameterGroupParams.json
```

`RDSCreateParameterGroupParams` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ParameterGroupName": "my-db-parameter-group",
  "ParameterGroupFamily": "mysql5.6",
  "Description": "A meaningful description of the parameter group",
  "Priority": "Medium",
```

```
"Parameters": [  
  {  
    "ParameterName": "max_connections",  
    "ParameterValue": "100"  
  }  
],  
"RDSInstanceName": "my-test-db"  
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、RDSCreateParameterGroupRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RDSCreateParameterGroupRfc.json
```

3. RDSCreateParameterGroupRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeId": "ct-3da2lxapopb86",  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "Title": "Create Custom RDS Parameter Group"  
}
```

4. RDSCreateParameterGroupRfc ファイルと GRDSCreateParameterGroupParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RDSCreateParameterGroupRfc.json --  
execution-parameters file://GRDSCreateParameterGroupParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

Amazon S3 バケットにイベント通知を追加する

Amazon S3 コンソールを使用して S3 バケットにイベント通知を追加する Amazon S3

AMS コンソールでこの変更タイプのスクリーンショットを次に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して S3 バケットにイベント通知を追加する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0o4zi9bzig74lp" --change-type-version
"1.0" --title "Add event notification" --execution-parameters "{ \"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-AddBucketEventNotification\", \"Region\": \"us-
east-1\", \"Parameters\": { \"BucketName\": \"bucketname\", \"EventName\":
\"eventname\", \"Prefix\": \"foo\", \"Suffix\": \".bar\", \"EventTypes\":
[ \"s3:ObjectCreated:Post\", \"s3:ObjectCreated:Put\" ], \"DestinationARN\":
\"arn:aws:lambda:us-east-1:123456789012:function:functionname\" } }"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、AddEventNotificationS3Params.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-220bdb8blaixf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
AddEventNotificationS3Params.json
```

2. AddEventNotificationS3Params ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-AddBucketEventNotification",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "BucketName": "bucketname",
    "EventName": "eventname",
    "Prefix": "foo",
    "Suffix": ".bar",
    "EventTypes": [
      "s3:ObjectCreated:Post",
      "s3:ObjectCreated:Put"
    ],
    "DestinationARN": "arn:aws:lambda:us-east-1:123456789012:function:functionname"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを AddEventNotificationS3Rfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > AddEventNotificationS3Rfc.json
```

4. AddS3LifecycleConfigRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0o4zi9bzbz74lp",
  "Title": "Add Event Notification"
}
```

5. RFC を作成し、AddEventNotificationS3Rfc ファイルと AddEventNotificationS3Params ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AddEventNotificationS3Rfc.json --
execution-parameters file://AddEventNotificationS3Params.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AMS 自動 IAM プロビジョニングのカスタム拒否リストを更新する

コンソールでカスタム拒否リストを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI でカスタム拒否リストを更新する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2r9xvd3sdsic0" --change-type-version "1.0" --
title "Update custom deny list for Automated IAM Provisioning" --execution-parameters
{"\"CustomerCustomDenyActionsList1\":\": \"ec2:RunInstances,s3:PutBucket,sagemaker:*\",
\"Priority\":\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを CustomerCustomDenyActionsList.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2r9xvd3sdsic0"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CustomerCustomDenyActionsList.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CustomerCustomDenyActionsList",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "CustomerCustomDenyActionsList1": "ec2:RunInstances,s3:PutBucket,sagemaker:*",
    "Priority": "High"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CustomerCustomDenyActionsListRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton >
CustomerCustomDenyActionsListRfc.json
```

4. CustomerCustomDenyActionsListRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2r9xvd3sdsic0",
  "Title": "Update custom deny list for Automated IAM Provisioning"
}
```

5. CreateAcmPublicRfc ファイルと CreateAcmPublicParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CustomerCustomDenyActionsListRfc.json
--execution-parameters file://CustomerCustomDenyActionsListParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを SALZ アカウントの Route 53 に移行する (マネージドオートメーション)

コンソールを使用して AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを Route 53 (SALZ) に移行する AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを Route 53 (SALZ) に移行する

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

必須パラメータのみ:

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2tqi3kjcusen4" --change-type-version "1.0" --title "Migrate AWS managed Microsoft AD to Route 53 DNS resolver for SALZ accounts" --execution-parameters "{}"
```

すべての必須パラメータとオプションパラメータ:

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2tqi3kjcusen4" --change-type-version "1.0" --title "Migrate AWS managed Microsoft AD to Route 53 DNS resolver for SALZ accounts" --execution-parameters "{\"Priority\": \"Medium\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを CreateMigrateToRoute53RequiredParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2tqi3kjcusen4" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateMigrateToRoute53RequiredParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Priority": "Medium"
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json
```

4. CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId":      "ct-2tqi3kjcusen4",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title":             "Migrate AWS managed Microsoft AD to Route 53 DNS resolver
                        for SALZ accounts"
}
```

5. CreateMigrateToRoute53RequiredRfc ファイルと CreateMigrateToRoute53RequiredParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json
--execution-parameters file://CreateMigrateToRoute53RequiredParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは手動の変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、手動変更タイプの RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する

コンソールで VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

VPC からのリゾルバールールと CLI の関連付けを解除する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws --profile saml --region us-east-1 amscm create-rfc --change-type-id
"ct-3e3prksxmdhw8" --change-type-version "2.0" --title "AMI-Create-IC" --
execution-parameters "{\"AMIName\": \"MyAmi\", \"VpcId\": \"VPC_ID\", \"EC2InstanceId\":
\"INSTANCE_ID\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateAmiFromAsgParams.json:

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3e3prksxmdhw8" --change-type-version
"1.0" --title "Create AMI from an Auto Scaling group" --execution-parameters
"{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-CreateAmiInAutoScalingGroup\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"AutoScalingGroupName\": [\"stack-ab0123cdef-
ASG-1ABC2345\"], \"Sysprep\": [\"False\"], \"StopInstance\": [\"False\"]}}"
```

2. 実行パラメータ CreateAmiFromAsgParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateAmiInAutoScalingGroup",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "AutoScalingGroupName": [
      "stack-ab0123cdef-ASG-1ABC2345"
    ],
    "Sysprep": [
      "False"
    ],
    "StopInstance": [
      "False"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では、CreateAmiFromAsgRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateAmiFromAsgRfc.json
```

4. CreateAmiFromAsgRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-3e3prksxmdhw8",
  "Title": "Create AMI from an Auto Scaling group"
}
```

5. CreateAmiFromAsgRfc ファイルと CreateAmiFromAsgParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateAmiFromAsgRfc.json --execution-parameters file://CreateAmiFromAsgParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

拡張モニタリングの更新

コンソールを使用した拡張モニタリングの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した拡張モニタリングの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3jx80fquylzhf" --change-type-
version "1.0" --title "Update Enhanced Monitoring" --execution-parameters
"{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-UpdateRDSEnhancedMonitoring\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"DBIdentifierArn\": [\"arn:aws:rds:us-
```

```
east-1:000000000000:db:testdbinstance\"], \"MonitoringInterval\": [\"60\"],,  
\"MonitoringRoleName\": \"ds-monitoring-role\"}]}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを RotateRdsCertParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3jx80fquylzhf"  
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >  
UpdateRDSEnhancedMonitoringParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSEnhancedMonitoring",  
  "Region": "us-east-1",  
  "Parameters": {  
    "DBIdentifierArn": "arn:aws:rds:us-east-1:000000000000:db:testdbinstance",  
    "MonitoringInterval": "60",  
    "MonitoringRoleName": [  
      "rds-monitoring-role"  
    ]  
  }  
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json
```

4. UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-3jx80fquylzhf",  
  "Title": "Update Enhanced Monitoring"  
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json --
execution-parameters file://UpdateRDSEnhancedMonitoringParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

VPC をリゾルバールールに関連付ける

コンソールを使用した管理者アクセスのリクエスト

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した管理者アクセスのリクエスト

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Associate VPC with Resolver Rule" --ct-id="ct-2pbqoffhclpek" --ct-version="1.0" --execution-parameters "{\"Description\": \"Associate VPC with Resolver Rule\", \"ResolverRuleId\": \"rslvr-rr-974b1666869a4d27b\", \"VPCId\": \"vpc-02a18ed0cd3c17e71\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、VPCAssociateResolverRule.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2pbqoffhclpek" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > VPCAssociateResolverRule.json
```

2. 実行パラメータを変更して VPCAssociateResolverRuleParams.json. たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-AssociateVPCWithResolverRule",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "Name": "resolver-rule-associate-vpc-test",
    "ResolverRuleId": "rslvr-rr-1234567890abcdefg",
    "VPCId": "vpc-1a2b3c4d"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では、VPCAssociateResolverRuleRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > VPCAssociateResolverRuleRfc.json
```

4. VPCAssociateResolverRuleRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
```

```
"ChangeTypeId" : "ct-2pbqoffhclpek",  
"Title" : "Associate VPC with Resolver Rule "  
}
```

5. RFC を作成し、VPCAssociateResolverRuleRfc ファイルと VPCAssociateResolverRuleParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://VPCAssociateResolverRuleRfc.json --  
execution-parameters file://VPCAssociateResolverRuleParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AMS パターンをデプロイする (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した AMS パターン (マネージドオートメーション) のデプロイ

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AMS パターン (マネージドオートメーション) のデプロイ

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2jndrh7uit8uf" --change-type-version
"1.0" --title "Deploy AMS Patterns" --execution-parameters "{ \"PatternName
\": \"amsEbsVolumeSnapshotTagger\", \"PatternParameters\": { \"ExcludedTags\":
\"BackupProd, Backup\", \"ASMGuardRail\": \"enabled\" }, \"OrganizationalUnit\":
\"ou-9dyd-s2vptest\" }
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では DeployAMSPatternsParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2jndrh7uit8uf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeployAMSPatternsParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "PatternName": "amsEbsVolumeSnapshotTagger",
  "ExcludeAccounts": ["123456789012"],
  "OrganizationalUnitIds": ["ou-9dyd-jvsei4yg"],
  "Priority": "Medium",
  "PatternParameters": [
    {
      "Name": "Foo",
      "Value": "Bar"
    }
  ]
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では DeployAMSPatternsRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeployAMSPatternsRfc.json
```

4. DeployAMSPatternsRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2jndrh7uit8uf",
  "Title": "Deploy AMS Patterns"
}
```

5. DeployAMSPatternsRfc ファイルと DeployAMSPatternsParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeployAMSPatternsRfc.json --execution-parameters file://DeployAMSPatternsParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AWS KMS キーの共有

コンソールで AWS KMS キーを共有する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI と AWS KMS キーを共有する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Add Static Route" --description="Share KMS Key"
--ct-id="ct-05yb337abq3x5" --ct-version="1.0" --input-params="{\"KMSKeyArn\":
\"arn:aws:kms:us-east-1:111122223333:key/06506094-64e2-47f3-94bd-f919eefa22f5\",
\"TargetAccountId\": \"000000000000\", \"IncludeKeyGrantOperations\": \"false\",
\"IAMUserOrRole\": \"arn:aws:iam::000000000000:role/role-name\", \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では ShareKmsKeyParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-05yb337abq3x5" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > ShareKmsKeyParams.json
```

ShareKmsKeyParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description": "Share KMS Key",
  "Parameters": {
    "KMSKeyArn": "arn:aws:kms:us-east-1:111122223333:key/06506094-64e2-47f3-94bd-
f919eefa22f5",
    "TargetAccountId": "000000000000",
```

```
"IncludeKeyGrantOperations": "false"
  "IAMUserOrRole": "arn:aws:iam::000000000000:role/role-name"
}
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ShareKmsKeyParamsRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ShareKmsKeyParamsRfc.json
```

3. ShareKmsKeyParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": {
    "ChangeTypeVersion": "1.0",
    "ChangeTypeId": "ct-05yb337abq3x5",
    "Title": "Share KMS Key"
  }
}
```

4. ShareKmsKeyParamsRfc ファイルと ShareKmsKeyParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ShareKmsKeyParamsRfc.json --execution-parameters file://ShareKmsKeyParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

踏み台を介してインスタンスにログインするには、次の手順「[インスタンスアクセスの例](#)」に従います。

Active Directory 信頼の作成

コンソールで AD 信頼を追加する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI での AD 信頼の追加

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

- 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0x6dylrnfjgz5" --change-type-version "1.0" --
title "Create AD Trust" --execution-parameters '
{"DocumentName":"AWSManagedServices-CreateADTrust","Region":"ap-
southeast-2","Parameters":{"DirectoryId":["d-976774e42f"],"RemoteDomainName":
["onprem.local"],"SecretArn":["arn:aws:secretsmanager:ap-
southeast-2:996606605561:secret:customer-shared/CorrectTPW-BI79uu"],"TrustType":
["External"],"ConditionalForwarderIpAddresses":["10.153.28.39]}}
```

テンプレートの作成:

- この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateADTrustParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0x6dylrnfjgz5" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateADTrustParams.json
```

CreateADTrustParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateADTrust",
  "Region": "ap-southeast-2",
  "Parameters": {
    "DirectoryId": [
      "d-976774e42f"
    ],
    "RemoteDomainName": [
      "onprem.local"
    ],
    "SecretArn": [
      "arn:aws:secretsmanager:ap-southeast-2:996606605561:secret:customer-shared/
CorrectTPW-BI79uu"
    ],
    "TrustType": [
      "External"
    ],
    "ConditionalForwarderIpAddresses": [
      "10.153.28.39"
    ]
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では、CreateADTrustRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateADTrustRfc.json
```

3. CreateADTrustRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": "ct-0x6dylrnfjgz5",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title": "Active Directory Trust"
}
```

```
}
```

4. CreateADTrustRfc ファイルと CreateADTrustParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateADTrustRfc.json --execution-parameters file://CreateADTrustParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Directory Service の詳細については、[「Directory Service 管理者ガイド」](#)を参照してください。

スタックアクセス期間を上書きする (マネージドオートメーション)

コンソールでスタックアクセス期間を上書きする

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI でスタックアクセス期間を上書きする

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

"\]}}}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Override Stack Access Duration" --description="Override Stack Access Duration" --ct-id="ct-0jb01cofkhwk1" --ct-version="1.0" --input-params="{\"TimeRequestedInHours\": 15,\"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、OverrideStackAccessDurationParameters.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0jb01cofkhwk1" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > OverrideStackAccessDurationParameters.json
```

2. OverrideStackAccessDurationParameters.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "TimeRequestedInHours": 15,
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを OverrideStackAccessDuration.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > OverrideStackAccessDuration.json
```

4. OverrideStackAccessDuration.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
```

```
"ChangeTypeId": "ct-0jb01cofkhwk1",  
"Title": "Override Stack Access Duration"  
}
```

5. RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://OverrideStackAccessDuration.json --  
execution-parameters file://OverrideStackAccessDurationParameters.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 IAM プロビジョニングを有効にする

コンソールで読み取り/書き込みアクセス許可による自動 AWS Identity and Access Management プロビジョニングを有効にする

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI で読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 AWS Identity and Access Management プロビジョニングを有効にする

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1706xvvk6j9hf" --change-type-version "1.0" --title "Enable (managed automation)" --execution-parameters "{ \"SAMLIdentityProviderArns\": [\"arn:aws:iam::123456789012:saml-provider/customer-saml\"], \"IamEntityArns\": [\"arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-one\", \"arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-two\"], \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では EnableAutomatedIAMProvisioningParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1706xvvk6j9hf" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > EnableAutomatedIAMProvisioningParams.json
```

2. EnableAutomatedIAMProvisioningParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "SAMLIdentityProviderArns": ["arn:aws:iam::123456789012:saml-provider/customer-saml"],
  "IamEntityArns": ["arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-one",
    "arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-two"],
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json
```

4. EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "1.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-1706xvvk6j9hf",
  "Title":                "Enable-Automated-IAM-Provisioning-RFC"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateSecurityPolicy Rfc ファイルと UpdateSecurityPolicyParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json
--execution-parameters file://EnableAutomatedIAMProvisioningParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

VPC 静的ルートの追加 (マネージドオートメーション)

コンソールで静的ルートを追加する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI での静的ルートの追加

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create Rfc` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --title="Add Static Route" --description="Add static route"
--ct-id="ct-06bww93ukgg8t" --ct-version="1.0" --input-params="{\"RouteTableId
\": \"rtb-0123abcd\", \"DestinationCidrBlock\": \"172.31.0.0/16\", \"Target\":
\"pcx-0123456789abcdefg\", \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では `EncryptAmiParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-06bww93ukgg8t" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > AddStaticRouteParams.json
```

2. 実行 `AddStaticRouteParams.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "RouteTableId": "rtb-0123abcd",
  "DestinationCidrBlock": "172.31.0.0/16",
  "Target": "pcx-0123456789abcdefg",
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では `AddStaticRouteRfc.json`:

```
aws amscm create-rtc --generate-cli-skeleton > AddStaticRouteRfc.json
```

4. `AddStaticRouteRfc.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-06bwg93ukgg8t",
  "Title": "Add static route"
}
```

5. RFC を作成し、AddStaticRouteRfc ファイルと AddStaticRouteParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AddStaticRouteRfc.json --execution-parameters file://AddStaticRouteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

VPCs [「仮想プライベートクラウド \(VPC\)」](#) を参照してください。

IAM エンティティまたはポリシーを作成する

コンソールを使用した IAM エンティティまたはポリシーの作成

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した IAM エンティティまたはポリシーの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1n9gfnog5x7f1" --change-type-version "1.0" --title "Create role or policy" --execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningCreate-Admin","Region":"us-east-1","Parameters":{"ValidateOnly":"No"},"RoleDetails":{"Roles":[{"RoleName":"RoleTest01","Description":"This is a test role","AssumeRolePolicyDocument":{"Version": "2012-10-17", "Statement":[{"Effect":"Allow","Principal":{"AWS":"arn:aws:iam::123456789012:root"},"Action":"sts:AssumeRole"}]}],"ManagedPolicyArns":["arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01","arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02"],"Path":"/","MaxSessionDuration":"7200","PermissionsBoundary":"arn:aws:iam::123456789012:policy/permission_boundary01","InstanceProfile":"No"}]},"ManagedPolicyDetails":{"Policies":[{"ManagedPolicyName":"TestPolicy01","Description":"This is customer policy","Path":"/test/","PolicyDocument":{"Version":"2012-10-17","Statement":[{"Sid":"AllQueueActions","Effect":"Allow","Action":"sqs:ListQueues","Resource":"*","Condition":{"ForAllValues:StringEquals":{"aws:tagKeys":["temporary"]}}}}]}]}}'
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では `CreateIamResourceParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1n9gfnog5x7f1" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateIamResourceParams.json
```

2. `CreateIamResourceParams` ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningCreate-Admin",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "ValidateOnly": "No"
},
"RoleDetails": {
  "Roles": [
    {
      "RoleName": "RoleTest01",
      "Description": "This is a test role",
      "AssumeRolePolicyDocument": {
        "Version": "2012-10-17",
        "Statement": [
          {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
              "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:root"
            },
            "Action": "sts:AssumeRole"
          }
        ]
      },
      "ManagedPolicyArns": [
        "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01",
        "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02"
      ],
      "Path": "/",
      "MaxSessionDuration": "7200",
      "PermissionsBoundary": "arn:aws:iam::123456789012:policy/
permission_boundary01",
      "InstanceProfile": "No"
    }
  ],
  "ManagedPolicyDetails": {
    "Policies": [
      {
        "ManagedPolicyName": "TestPolicy01",
        "Description": "This is customer policy",
        "Path": "/test/",
        "PolicyDocument": {
          "Version": "2012-10-17",
          "Statement": [
            {
```

```
"Sid": "AllQueueActions",
"Effect": "Allow",
"Action": "sqs:ListQueues",
"Resource": "*",
"Condition": {
  "ForAllValues:StringEquals": {
    "aws:tagKeys": [
      "temporary"
    ]
  }
}
]
}
]
}
]
}
]
}
]
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを `CreatelamResourceRfc.json`:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateIamResourceRfc.json
```

4. `CreatelamResourceRfc.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1n9gfnog5x7f1",
  "Title": "Create entity or policy (read-write permissions)"
}
```

5. `CreatelamResourceRfc` ファイルと `CreatelamResourceParams` ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateIamResourceRfc.json --
execution-parameters file://CreateIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- アカウントに IAM ロールがプロビジョニングされた後、ロールとロールにアタッチするポリシードキュメントによっては、フェデレーションソリューションでロールをオンボードする必要がある場合があります。
- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[マネージドポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

IAM エンティティまたはポリシーを更新する

コンソールを使用した IAM エンティティまたはポリシーの更新

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した IAM エンティティまたはポリシーの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1e0xmuy1diafq" --change-type-version
  "1.0" --title "Update role or policy" --execution-parameters "{\"DocumentName
  \": \"AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningUpdate-Admin\", \"Region
  \": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"ValidateOnly\": \"No\"}, \"RoleDetails
  \": {\"Roles\": [{\"RoleName\": \"RoleTest01\", \"Description\": \"This is a test
  role\", \"AssumeRolePolicyDocument\": {\"Version\": \"2012-10-17\",
  \"Statement\": [{\"Effect\": \"Allow\", \"Principal\": {\"AWS\":
  \"arn:aws:iam::123456789012:root\"}, \"Action\": \"sts:AssumeRole
  \"}]}}\", \"ManagedPolicyArns\": [\"arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01\",
  \"arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02\"], \"MaxSessionDuration\": \"7200\",
  \"PermissionsBoundary\": \"arn:aws:iam::123456789012:policy/permission_boundary01\"
  ]}], \"ManagedPolicyDetails\": {\"Policies\": [{\"ManagedPolicyName\": \"TestPolicy01\",
  \"PolicyDocument\": {\"Version\": \"2012-10-17\", \"Statement\":
  [{\"Sid\": \"AllQueueActions\", \"Effect\": \"Allow\", \"Action
  \": \"sqs:ListQueues\", \"Resource\": \"*\", \"Condition\": {
  \"ForAllValues:StringEquals\": {\"aws:tagKeys\": [\"temporary\"]}}]}]}]}}\"}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では UpdateIamResourceParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1e0xmuy1diafq"
  --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
  UpdateIamResourceParams.json
```

2. UpdateIamResourceParams ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningUpdate-Admin",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "ValidateOnly": "No"
  },
  "RoleDetails": {
    "Roles": [
      {
```

```

    "RoleName": "RoleTest01",
    "Description": "This is a test role",
    "AssumeRolePolicyDocument": {"Version": "2012-10-17", "Statement":
[{"Effect": "Allow", "Principal":
{"AWS": "arn:aws:iam::123456789012:root"}, "Action": "sts:AssumeRole"}]},
    "ManagedPolicyArns": [
      "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01",
      "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02"
    ],
    "MaxSessionDuration": "7200",
    "PermissionsBoundary": "arn:aws:iam::123456789012:policy/
permission_boundary01"
  }
]
},
"ManagedPolicyDetails": {
  "Policies": [
    {
      "ManagedPolicyName": "TestPolicy01",
      "PolicyDocument": {"Version": "2012-10-17", "Statement":
[{"Sid": "AllQueueActions", "Effect": "Allow", "Action": "sqs:ListQueues", "Resource": "*", "Condit
{"ForAllValues:StringEquals":{"aws:tagKeys":["temporary"]}}]}]}
    }
  ]
}
}

```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを UpdateIamResourceRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateIamResourceRfc.json
```

4. UpdateIamResourceRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のよ うな内容に置き換えることができます。

```

{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1e0xmuy1diafq",
  "Title": "Update entity or policy (read-write permissions)"
}

```

5. RFC を作成し、UpdateIamResourceRfc ファイルと UpdateIamResourceParams ファイルを指 定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateIamResourceRfc.json --
execution-parameters file://UpdateIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[管理ポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

IAM エンティティまたはポリシーを削除する

コンソールを使用した IAM エンティティまたはポリシーの削除

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した IAM エンティティまたはポリシーの削除

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

"\"]}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-17cj84y7632o6" --change-type-version
"1.0" --title "Delete role or policy" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningDelete-Admin\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"RoleName\": [\"TestRole01\", \"TestRole02\"],
\"ManagedPolicyName\": [\"TestPolicy01\", \"TestPolicy02\"]}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例名は DeletelamResourceParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-17cj84y7632o6"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteIamResourceParams.json
```

2. DeletelamResourceParams ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName" : "AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningDelete-Admin",
  "Region" : "us-east-1",
  "Parameters": {
    "RoleName": ["TestRole01", "TestRole02"],
    "ManagedPolicyName": ["TestPolicy01", "TestPolicy02"]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを DeletelamResourceRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteIamResourceRfc.json
```

4. DeletelamResourceRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-17cj84y7632o6",
  "Title": "Delete entity or policy (read-write permissions)"
}
```

5. DeletelamResourceRfc ファイルと DeletelamResourceParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteIamResourceRfc.json --
execution-parameters file://DeleteIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および [「マネージドポリシーとインラインポリシー」](#) を参照してください。

詳細モニタリングの更新

コンソールを使用した EC2 インスタンスの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EC2 インスタンスの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title "Update EC2 detailed monitoring" -update --change-type-id ct-0tmpmp1wpgkr9 --change-type-version 1.0 --execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-UpdateInstanceEnhancedMonitoring","Region":"us-east-1","Parameters":{"InstanceIds":["i-09d65b13db992e8d4","i-0cdbc78ad80d2378c"]}}'
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateEc2MonitoringParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0tmpmp1wpgkr9" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateEc2MonitoringParams.json
```

2. UpdateEc2MonitoringParams ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateInstanceEnhancedMonitoring",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "InstanceIds": [
    "i-09d65b13db992e8d4",
    "i-0cdbd78ad80d2378c"
  ],
  "MonitoringValue": "enabled"
}
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateEc2MonitoringRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateEc2MonitoringRfc.json
```

4. UpdateEc2MonitoringRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0tmpmp1wpgkr9",
  "Title": "EC2 Update Detailed Monitoring"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateEc2MonitoringRfc ファイルと UpdateEc2MonitoringParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateEc2MonitoringRfc.json --
execution-parameters file://UpdateEc2MonitoringParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EC2 の詳細については、[「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」](#)を参照してください。

ディレクトリを共有する

コンソールでディレクトリを共有する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI とディレクトリを共有する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-369odosk0pd9w" --change-type-version
"1.0" --title "Share Directory" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-ShareDirectory\", \"Region\": \"ap-southeast-2\", \"Parameters\":
{\"DirectoryId\": [\"d-123456ab7c\"], \"TargetAccountId\": [\"012345678912\"]}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では DirectorySharingParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-369odosk0pd9w"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DirectorySharingParams.json
```

DirectorySharingParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-ShareDirectory",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DirectoryId": [
      "d-123456ab7c"
    ],
    "TargetAccountId": [
      "012345678912"
    ]
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では DirectorySharingRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DirectorySharingRfc.json
```

3. DirectorySharingRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": "ct-369odosk0pd9w",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title": "Share Directory"
}
```

4. DirectorySharingRfc ファイルと DirectorySharingParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file:///DirectorySharingRfc.json --execution-parameters file:///DirectorySharingParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

関連する CTs [「 Directory Service Subcategory 」](#) を参照してください。

ディレクトリの共有解除

コンソールでディレクトリの共有を解除する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI とのディレクトリの共有を解除する

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2xd2an1b5hbzo" --change-type-version
"1.0" --title "Unshare Directory" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\\\"AWSManagedServices-ShareDirectory\\\", \\\"Region\\\": \\\"ap-southeast-2\\\", \\\"Parameters\\\":
{\\\"DirectoryId\\\": [\\\"d-123456ab7c\\\"], \\\"UnshareTarget\\\": [\\\"012345678912\\\"]}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では DirectoryUnsharingParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2xd2an1b5hbzo"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DirectoryUnsharingParams.json
```

DirectoryUnsharingParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UnshareDirectory",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DirectoryId": [
      "d-123456ab7c"
    ],
    "UnshareTarget": [
      "012345678912"
    ]
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では DirectoryUnsharingRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DirectoryUnsharingRfc.json
```

- DirectoryUnsharingRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": "ct-2xd2an1b5hbzo",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title": "Unshare Directory"
}
```

- DirectoryUnsharingRfc ファイルと DirectoryUnsharingParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DirectoryUnsharingRfc.json --
execution-parameters file://DirectoryUnsharingParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

関連する CTs [「 Directory Service Subcategory 」](#) を参照してください。

VPC エンドポイントを作成する

コンソールを使用した VPC エンドポイントの作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

- RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
- デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した VPC エンドポイントの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3oafbdbzjtupq" --change-type-version "1.0" --title "Create VPC Endpoint" --execution-parameters "{\"Description\": \"VPC endpoint interface\", \"VpcId\": \"vpc-1234567890abcdef0\", \"Name\": \"VPC endpoint interface\", \"StackTemplateId\": \"stm-f0cumpt1rfc1p1739\", \"TimeoutInMinutes\": 60, \"Parameters\": {\"VpcId\": \"vpc-1234567890abcdef0\", \"ServiceName\": \"com.amazonaws.us-east-1.codedeploy\", \"SecurityGroups\": [\"sg-1234567890abcdef0\", \"sg-1234567890abcdef1\"], \"SubnetIds\": [\"subnet-1234567890abcdef0\", \"subnet-1234567890abcdef1\"], \"EnablePrivateDns\": \"false\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では VPCEndpointCreateParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3oafbdbzjtupq" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > VPCEndpointCreateParams.json
```

2. 実行パラメータを変更して VPCEndpointCreateParams.json. たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description": "VPC endpoint interface",
  "VpcId": "vpc-1234567890abcdef0",
```

```
"Name": "VPC endpoint interface",
"StackTemplateId": "stm-f0cumpt1rfc1p1739",
"TimeoutInMinutes": 60,
"Parameters": {
  "VpcId": "vpc-1234567890abcdef0",
  "ServiceName": "com.amazonaws.us-east-1.codedeploy",
  "SecurityGroups": [
    "sg-1234567890abcdef0",
    "sg-1234567890abcdef1"
  ],
  "SubnetIds": [
    "subnet-1234567890abcdef0",
    "subnet-1234567890abcdef1"
  ],
  "EnablePrivateDns": "false"
}
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では VPCEndpointCreateRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > VPCEndpointCreateRfc.json
```

4. VPNGatewayCreateRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-3oafsdzbzjtuqp",
  "Title" : "Create VPC Endpoint "
}
```

5. RFC を作成し、VPCEndpointCreateRfc ファイルと VPCEndpointCreateParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://VPCEndpointCreateRfc.json --
execution-parameters file://VPCEndpointCreateParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

RDS ストレージを更新する

コンソールを使用した RDS ストレージの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS ストレージの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email\": {"EmailRecipients\": [{"email@example.com"}]}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0loed9dzig1ze" --change-type-version
"1.0" --title "Update RDS storage" --execution-parameters '{"DocumentName\":
"AWSManagedServices-UpdateRDSStorage\","\Region\":"us-east-1","\Parameters\":
{"DBInstanceIdentifier\":[\rt123456789\"], \AllocatedStorage\": [\100\],,
\ApplyImmediately\": \true\}'
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateStorageParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0loed9dzig1ze" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateStorageParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSStorage",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DBInstanceIdentifier": [
      "rt123456789"
    ],
    "AllocatedStorage": [
      "100"
    ],
    "ApplyImmediately": "false"
  }
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateStorageRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateStorageRfc.json
```

4. UpdateStorageRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0loed9dzig1ze",
  "Title": "Update RDS storage"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateStorageRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateStorageRfc.json --execution-parameters file://UpdateStorageParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、「このスタックで更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください」というエラーメッセージが表示されます。

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

RDS マルチ AZ デプロイを更新する

コンソールを使用した RDS マルチ AZ デプロイの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS マルチ AZ デプロイの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-36jq7gvwyty8h" --change-type-version
"1.0" --title "Update RDS Multiple AZ" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateRDSMultiAZ\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{ \"DBInstanceIdentifier\": [\"rt123456789\"], \"MultiAZ\": \"true\", \"ApplyImmediately
\": \"true\"}}\"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateMultipleAzParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-36jq7gvwyty8h"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateMultipleAzParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSMultiAZ",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DBInstanceIdentifier": [
      "rt123456789"
    ],
  },
}
```

```
"MultiAZ": "true",  
"ApplyImmediately": "false"  
}  
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateMultipleAzRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateMultipleAzRfc.json
```

- UpdateMultipleAzRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
"ChangeTypeVersion": "1.0",  
"ChangeTypeId": "ct-36jq7gvwyty8h",  
"Title": "Update RDS Multiple AZ"  
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateMultipleAzRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateMultipleAzRfc.json --execution-parameters file://UpdateMultipleAzParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、「このスタックで更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください」というエラーメッセージが表示されます。

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#) を参照してください。

RDS インスタンスタイプを更新する

コンソールで RDS インスタンスタイプを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS インスタンスタイプの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-13swbwdxg106z" --change-type-version
"1.0" --title "Update rds instance type" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateRDSInstanceType\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{\"DBInstanceIdentifier\": [\"rt123456789\"], \"DBInstanceClass\": [\"db.m4.large\"],
\"ApplyImmediately\": \"true\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateInstanceTypeParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-13swbwdxg106z"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateInstanceTypeParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSInstanceType",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DBInstanceIdentifier": [
      "rt123456789"
    ],
    "DBInstanceClass": [
      "db.m4.large"
    ],
    "ApplyImmediately": "false"
  }
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateInstanceTypeRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateInstanceTypeRfc.json
```

4. UpdateInstanceTypeRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-13swbwdxg106z",
  "Title": "Update RDS instance type"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateInstanceTypeRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateInstanceTypeRfc.json --
execution-parameters file://UpdateInstanceTypeParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、「このスタックで更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください」というエラーメッセージが表示されます。

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

S3 バケットのバージョニングを更新する

コンソールを使用した S3 バケットのバージョニングの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した S3 バケットのバージョンングの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\" : {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2hh93eyzmbkd" --change-type-version "1.0" --title "Update bucket versioning" --execution-parameters "{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-UpdateBucketVersioning\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"BucketName\": [\"BucketName\"], \"Versioning\": \"Enabled\"}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateBucketVersioningParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2hh93eyzmbkd" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateBucketVersioningParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateBucketVersioning",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "BucketName": [
      "BucketName"
    ],
    "Versioning": "Enabled"
  }
}
```

```
}  
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateBucketVersioningRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateBucketVersioningRfc.json
```

- UpdateBucketVersioningRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-2hh93eyzmbkd",  
  "Title": "Update bucket versioning"  
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRdsRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateBucketVersioningRfc.json --  
execution-parameters file://UpdateBucketVersioningParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon S3 の詳細については、[「Amazon Simple Storage Service ドキュメント」](#)を参照してください。

S3 バケット暗号化を更新する

コンソールを使用した S3 バケット暗号化の更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

- RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した S3 バケット暗号化の更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-128svy9nn2yj8" --change-type-version
"1.0" --title "Update bucket encryption" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateBucketEncryption\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": {\"BucketName\": [\"BucketName\"], \"ServerSideEncryption\": \"KmsManagedKeys\",
\"KMSKeyId\": [\"01234567-abcd-abcd-abcd-0123456789ab\"]}}"
```

テンプレート作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateBucketEncryptionParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-128svy9nn2yj8"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateBucketEncryptionParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateBucketEncryption",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "BucketName": [
    "BucketName"
  ],
  "ServerSideEncryption": "KmsManagedKeys",
  "KMSKeyId": [
    "01234567-abcd-abcd-abcd-0123456789ab"
  ]
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateBucketEncryptionRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateBucketEncryptionRfc.json
```

- UpdateBucketEncryptionRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-128svy9nn2yj8",
  "Title": "Update bucket encryption"
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateBucketEncryptionRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateBucketEncryptionRfc.json --
execution-parameters file://UpdateBucketEncryptionParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon S3 の詳細については、[「Amazon Simple Storage Service ドキュメント」](#)を参照してください。

アプリケーションアカウントの更新 (マネージドオートメーション)

コンソールでアプリケーションアカウントを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したアプリケーションアカウントの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

Note

アプリケーションアカウントからこの変更タイプを実行します。

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0fuztxgwy37rf" --change-type-version
"1.0" --title "Child Application Account RFC" --execution-parameters "'{"RfcId\":"
\"7cc277c6-9b55-1f63-361b-5811fce9f830\"},\"Comment\":"test RFC\"}'"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateAppAcctVpcParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0fuztxgwy37rf" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateAppAcctParams.json
```

2. UpdateAppAcctParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "RfcId": "7cc277c6-9b55-1f63-361b-5811fce9f830",
  "Comment": "test RFC"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では UpdateAppAcctRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateAppAcctRfc.json
```

4. UpdateAppAcctRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0fuztxgwy37rf",
  "Title": "Child Application Account RFC"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateAppAcctRfc ファイルと UpdateAppAcctParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateAppAcctRfc.json --execution-
parameters file://UpdateAppAcctParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- **⚠ Important**
新しいアベイラビリティゾーン (AZ) に追加のパブリックサブネットを作成するには、プライベートサブネットがすでに存在している必要があります。
- この変更タイプはバージョン 3.0 になり、自動化されています (AMS によって手動で実行されなくなりました)。この変更タイプの 2.0 バージョンは、「マネージドオートメーション」(手動) 変更タイプでした。
- AMS マルチアカウントランディングゾーンの詳細については、[「VPC 共有: 複数のアカウントに対する新しいアプローチと VPC 管理」](#)を参照してください。

プライベート IP アドレスの関連付け (マネージドオートメーション)

ct-1pvlhug439gl2

プライベート IP アドレスをコンソールに関連付ける

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページ

を開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した事前取り込みインスタンスの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Associate Private IP Addresses" --description="Associate Private IP Addresses" --ct-id="ct-1pvlhug439gl2" --ct-version="1.0" --input-params="{\"NetworkInterfaceId\": \"eni-0123456789abcdef0\", \"PrivateIpAddresses\": [\"10.0.0.82\", \"10.0.0.83\"]}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では、AssociatePrivateIPAddressesParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1pvlhug439gl2" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > AssociatePrivateIPAddressesParams.json
```

2. AssociatePrivateIPAddressesParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "NetworkInterfaceId": "eni-0123456789abcdef0",
  "PrivateIpAddresses": ["10.0.0.82", "10.0.0.83"]
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では AssociatePrivateIPAddressesRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > AssociatePrivateIPAddressesRfc.json
```

4. AssociatePrivateIPAddressesRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1pv1hug439g12",
  "Title": "Associate Private IP Addresses"
}
```

5. RFC を作成し、AssociatePrivateIPAddressesRfc ファイルと AssociatePrivateIPAddressesParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AssociatePrivateIPAddressesRfc.json
--execution-parameters file://AssociatePrivateIPAddressesParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EC2 IP アドレスの詳細については、[Amazon EC2 インスタンスの IP アドレス指定](#)を参照してください。

必要に応じて、[EC2 インスタンススタックの作成が失敗する](#)を参照してください。

Amazon RDS オプショングループの作成 (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した Amazon RDS オプショングループの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した Amazon RDS オプショングループの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-10yi1sd9nst1c" --change-type-version
"1.0" --title "Create option group (managed automation)" --execution-parameters
{"\"OptionGroupName\": \"CreatingTheOptionGroup\", \"Description\": \"RDS option
group\", \"EngineName\": \"sqlserver-ee\", \"MajorEngineVersion\": \"10.01\",
\"DBInstanceName\": \"database-1\", \"Priority\": \"Medium\"}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを CreateRdsOptionGroupParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-10yi1sd9nst1c"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateRdsOptionGroupParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"OptionGroupName": "OptionGroup",
"EngineName": "sqlserver-ee",
"MajorEngineVersion": "10.01"
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateRdsOptionGroupRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateRdsOptionGroupRfc.json
```

- CreateRdsOptionGroupRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
"ChangeTypeVersion": "1.0",
"ChangeTypeId": "ct-10yi1sd9nst1c",
"Title": "RDS-Create-RFC"
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと CreateRdsOptionGroupRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateRdsOptionGroupRfc.json --
execution-parameters file://CreateRdsOptionGroupParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- Amazon RDS DB オプショングループの詳細については、[「オプショングループの使用」](#)を参照してください。
- 最大 50 個のタグを追加できますが、そのためにはアドバンスドビューを有効にする必要があります。

TGW 静的ルートを削除する

ネットワークアカウント: コンソールを使用して TGW 静的ルートを削除する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

ネットワークアカウント: CLI を使用して TGW 静的ルートを削除する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実

行パラメータ用) のいずれかを使用し、2つのファイルを入力としてcreate-rfcコマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0rmgrnr9w8mzh" --change-type-version
"1.0" --title "Remove TGW Static Route" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-RemoveRouteFromTGWRouteTable\", \"Region\": \"us-east-1\",
\"Parameters\": {\"TransitGatewayRouteTableId\": \"tgw-rtb-06ddc751c0c0c881c\",
\"DestinationCidrBlock\": \"10.16.1.0/24\"}}\"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では RemoveTgwStaticRouteParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0rmgrnr9w8mzh"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
RemoveTgwStaticRouteParams.json
```

2. RemoveTgwStaticRouteParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-RemoveRouteFromTGWRouteTable",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "TransitGatewayRouteTableId": "tgw-rtb-06ddc751c0c0c881c",
    "DestinationCidrBlock": "10.16.1.0/24"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では、RemoveTgwStaticRouteRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RemoveTgwStaticRouteRfc.json
```

4. RemoveTgwStaticRouteRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0rmgrnr9w8mzh",
  "Title": "Remove TGW Static Route"
}
```

5. RFC を作成し、RemoveTgwStaticRouteRfc ファイルと RemoveTgwStaticRouteParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RemoveTgwStaticRouteRfc.json --
execution-parameters file://RemoveTgwStaticRouteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

この変更タイプは、マルチアカウントランディングゾーン (MALZ) ネットワークアカウントでのみ有効です。

AMS マルチアカウントランディングゾーンの詳細については、[AWS Managed Services \(AMS\) がマネージドランディングゾーンを提供するようになりました](#)」を参照してください。

WIGS 用に を作成する (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した WIGS のインスタンスの作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した WIGS のインスタンスの作成

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-36emj2uapfbu8" --change-type-version "2.0"
  --title "Create Pre-Ingestion Instance" --execution-parameters "{\"InstanceVpcId
  \": \"vpc-1234567890abcdef0\", \"InstanceAmiId\": \"ami-1234567890abcdef0\",
  \"InstanceEBSOptimized\": false, \"InstanceRootVolumeSize\": 60, \"InstanceNameTagValue
  \": \"temp-wigs\", \"InstanceType\": \"t3.large\", \"InstanceSubnetId\":
  \"subnet-0bb1c79de3EXAMPLE\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では CreateEc2PreIngestParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-36emj2uapfbu8"
  --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
  CreateEc2PreIngestParams.json
```

2. CreateEc2PreIngestParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "InstanceVpcId": "vpc-1234567890abcdef0",
  "InstanceAmiId": "ami-1234567890abcdef0",
  "InstanceEBSOptimized": false,
  "InstanceRootVolumeSize": 60,
  "InstanceSubnetId": "subnet-1234567890abcdef0",
  "InstanceType": "t3.large",
  "InstanceNameTagValue": "temp-wigs",
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateEc2PreIngestRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateEc2PreIngestRfc.json
```

4. CreateEc2PreIngestRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-36emj2uapfbu8",
  "Title": "Create Pre-Ingestion Instance"
}
```

5. CreateEc2PreIngestRfc ファイルと CreateEc2PreIngestParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateEc2PreIngestRfc.json --
execution-parameters file://CreateEc2PreIngestParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- AWS Marketplace AMI を使用するには、AWS Marketplace アカウントから AMI にサブスクライブし、AMI の条件に同意する必要があります。購入者は自分でこれらのアクションを実行するため、AMS はこれらのアクションを実行できません。これらのアクションに追加の IAM アクセス許可が必要な場合は、[Identity and Access Management \(IAM\) | Create EC2 Instance Profile](#) change type in a separate RFC to request them を使用します。

EBS ボリュームの変更

コンソールを使用した EBS ボリュームの変更

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EBS ボリュームの変更

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1wle0ai4en6km" --change-type-version
"2.0" --title "Modify EBS Volume" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-ModifyEBSVolumes\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": {\"VolumeIds\": [\"vol-1234567890abcdef1\", \"vol-1234567890abcdef2\",
\"vol-1234567890abcdef3\", \"vol-1234567890abcdef4\", \"vol-1234567890abcdef5\",
\"CreateSnapshot\": [\"False\", \"VolumeType\": [\"gp3\", \"VolumeSize\": [\"40\", \"Iops
\": [\"3000\", \"Throughput\": [\"200\", \"RemediateStackDrift\": [\"False\"]}]}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では、ModifyEBSVolumeParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1wle0ai4en6km"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ModifyEBSVolumeParams.json
```

2. ModifyEBSVolumeParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "DocumentName" : "AWSManagedServices-ModifyEBSVolumes",
  "Region" : "us-east-1",
  "Parameters" : {
    "VolumeIds" : [
      "vol-1234567890abcdef1",
      "vol-1234567890abcdef2",
      "vol-1234567890abcdef3",
      "vol-1234567890abcdef4",
      "vol-1234567890abcdef5"
    ],
    "CreateSnapshot" : [
      "False"
    ],
    "VolumeType" : [
      "gp3"
    ],
    "VolumeSize" : [
      "40"
    ],
    "Iops" : [
      "3000"
    ],
    "Throughput" : [
      "200"
    ],
    "RemediateStackDrift" : [
      "False"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では ModifyEBSVolumeRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ModifyEBSVolumeRfc.json
```

4. ModifyEBSVolumeRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"ChangeTypeVersion": "2.0",  
"ChangeTypeId": "ct-1wle0ai4en6km",  
"Title": "Modify EBS Volume"  
}
```

5. ModifyEBSVolumeRfc ファイルと ModifyEBSVolumeParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ModifyEBSVolumeRfc.json --execution-  
parameters file://ModifyEBSVolumeParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EBS の詳細については、[「Amazon Elastic Block Store \(EBS\)」](#) を参照してください。

更新 AWS Backup プラン (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した AWS Backup プランの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AWS Backup プランの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter  
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1ay83wy4vxa3k" --change-type-version "1.0" --title "Update AWSBackup Plan" --execution-parameters "'{\"BackupPlanName\": \"PLAN_NAME\", \"ResourceTagKey\": \"TAG_KEY\", \"ResourceTagValue\": \"TAG_VALUE\", \"BackupRuleName\": \"RULE_NAME\", \"BackupRuleVault\": \"VAULT\", \"BackupRuleCompletionWindowMinutes\": 120, \"BackupRuleScheduleExpression\": \"cron(0 1 ? * * *)\", \"BackupRuleDeleteAfterDays\": 90, \"BackupRuleMoveToColdStorageAfterDays\": 365, \"BackupRuleStartWindowMinutes\": 60, \"BackupRuleRecoveryPointTagKey\": \"TAG_KEY\", \"BackupRuleRecoveryPointTagValue\": \"TAG_VALUE\", \"BackupRuleEnableContinuousBackup\": \"false\", \"BackupRuleCopyActionsDestVaultArn\": \"VAULT\", \"BackupRuleCAMoveToColdStorageAfterDays\": 0, \"BackupRuleCopyActionsDeleteAfterDays\": 90}'"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateBackupPlanParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1ay83wy4vxa3k" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateBackupPlanParams.json
```

2. UpdateBackupPlanParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "BackupPlanName": "MyCustomBackupPlan",
  "ResourceTagKey": "custom_backup_test",
  "ResourceTagValue": "true",
  "WindowsVSS": "disabled",
  "BackupRuleName": "BackupRule",
```

```
"BackupRuleVault": "ams-custom-backups",
"BackupRuleCompletionWindowMinutes": 1440,
"BackupRuleScheduleExpression": "cron(0 2 ? * * *)",
"BackupRuleDeleteAfterDays": 0,
"BackupRuleMoveToColdStorageAfterDays": 0,
"BackupRuleStartWindowMinutes": 180,
"BackupRuleRecoveryPointTagKey": "test",
"BackupRuleRecoveryPointTagValue": "test",
"BackupRuleEnableContinuousBackup": "false",
"BackupRuleCopyActionsDestVaultArn": "",
"BackupRuleCAMoveToColdStorageAfterDays": 0,
"BackupRuleCopyActionsDeleteAfterDays": 0
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateBackupPlanRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateBackupPlanRfc.json
```

4. UpdateBackupPlanRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1ay83wy4vxa3k",
  "Title": "Update AWS Backup Plan"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateBackupPlanRfc ファイルと UpdateBackupPlanParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateBackupPlanRfc.json --execution-parameters file://UpdateBackupPlanParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

でサポートされているすべてのリソースタイプ AWS Backup がデフォルトで有効になっているわけではありません。[入門 1: サービスオプトイン](#)を使用して、アカウントで有効になっているリソースタイプを確認します。

AWS Backup の詳細については、[AWS Backup: 仕組み](#)」を参照してください。

バックアッププランを作成する前に、サポートされているリソースを「[リソース別の機能の可用性](#)」で確認します。

オフボーディングの確認

Important

アプリケーションアカウントをオフボードする意図を確認したら、[管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント](#) 変更タイプ (ct-0vdiy51oyrhhm) を実行するのに 48 時間かかります。48 時間後、オフボーディングリクエストは失敗し、オフボーディングを確認してからオフボーディングのプロセスを再開する必要があります。

アプリケーションアカウント: コンソールでのオフボーディングの確認

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

アプリケーションアカウント: CLI によるオフボーディングの確認

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

Note

アプリケーションアカウントからこの変更タイプを実行します。

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2wlfo2jxj2rkj" --change-type-version "1.0" --title "Confirm Offboarding" --execution-parameters "{\"AccountID\": \"000000000000\", \"AccountEmail\": \"email@amazon.com\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では ConfirmAppAcctOffBParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2wlfo2jxj2rkj" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > ConfirmAppAcctOffBParams.json
```

2. ConfirmAppAcctOffBParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "AccountID": "000000000000",
```

```
"AccountEmail": "email@amazon.com",  
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では ConfirmAppAcctOffBRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ConfirmAppAcctOffBRfc.json
```

4. ConfirmAppAcctOffBRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-2wlfo2jxj2rkj",  
  "Title": "Confirm Offboarding"  
}
```

5. ConfirmAppAcctOffBRfc ファイルと ConfirmAppAcctOffBParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ConfirmAppAcctOffBRfc.json --  
execution-parameters file://ConfirmAppAcctOffBParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- AMS マルチアカウントランディングゾーンアプリケーションアカウントをオフボーディングする 2 番目のステップは、オフボーディングのインテントを確認してから 48 時間以内にアプリケーションアカウントから [変更管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント](#) タイプ (ct-0vdiy51oyrhbm) を送信することです。
- アプリケーションアカウント (カスタマーマネージド以外) の場合は、オフボードするアプリケーションアカウントからこれを実行します。確認に成功したら、関連する [管理アカウントからオフボードアプリケーション](#) アカウント CT (ct-0vdiy51oyrhbm) を実行します。オフボーディングはアカウント閉鎖を目的としており、元に戻すことはできません。

- カスタマーマネージドアプリケーションアカウントには、この CT を使用しないでください。[Offboard アプリケーションアカウント](#) CT (ct-0vdiy51oyrhhm) に直接移動します。

管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント

⚠ Important

オフボーディングの確認 変更タイプ (ct-2wlfo2jxj2rkj) を正常に実行してから、指定したアプリケーションアカウントをオフボードするには 48 時間かかります。48 時間後、オフボーディングリクエストは失敗し、オフボーディングを確認してからオフボーディングのプロセスを再開する必要があります。

⚠ Warning

この変更タイプを送信してアプリケーションアカウントのオフボーディングを開始する前に、アプリケーションアカウントに関連付けられているすべての RFCs が終了状態になっていることを確認してください。編集中、承認保留中、スケジュール済み、進行中のいずれかのステータスに RFCs があってはなりません。続行する前に、すべてのアクティブな RFCs をキャンセル、完了、または解決します。

管理アカウント: コンソールでアプリケーションアカウントをオフボードする

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

管理アカウント: CLI を使用したアプリケーションアカウントのオフボード

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

Note

この変更タイプは、オフボードされるアプリケーションアカウントに関連付けられた管理アカウントから実行します。

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0vdiy51oyrhhm" --change-type-version "2.0" --title "Run Offboarding" --execution-parameters "{\"AccountID\": \"000000000000\", \"AccountEmail\": \"email@amazon.com\", \"Confirmation\": \"confirm\", \"DeleteTransitGatewayAttachment\": true}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では RunAppAcctOffBParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0vdiy51oyrhhm" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > RunAppAcctOffBParams.json
```

2. RunAppAcctOffBParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"AccountID": "000000000000",
"AccountEmail": "email@amazon.com",
"Confirmation": "confirm",
"DeleteTransitGatewayAttachment" : true
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では RunAppAcctOffBRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RunAppAcctOffBRfc.json
```

4. RunAppAcctOffBRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0vdiy51oyrhbm",
  "Title": "Execute Offboarding"
}
```

5. RunAppAcctOffBRfc ファイルと RunAppAcctOffBParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RunAppAcctOffBRfc.json --
execution-parameters file://RunAppAcctOffBParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- AMS マルチアカウントランディングゾーンアプリケーションアカウントをオフボーディングする最初のステップは、アプリケーションアカウントから [オフボーディングの確認](#) CT (ct-2wlfo2jxj2rkj) を送信することです。

この変更タイプは、確認変更タイプが正常に実行されてから 48 時間以内に実行します。

- カスタマーマネージドアプリケーションアカウントに前提条件や確認 CT はありません。
- オフボーディングは元に戻せないことに注意してください。

- AMS からオフボーディングした後にアカウントを自己運用する場合は、接続を維持するために DeleteTransitGatewayAttachmentパラメータを falseに指定してください。

AMS リソーススケジューラソリューションをデプロイする

コンソールを使用した AMS Resource Scheduler ソリューションのデプロイ

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCsリストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した AMS Resource Scheduler ソリューションのデプロイ

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id ct-0ywnhc8e5k9z5 --change-type-version "2.0" --title "Deploy Resource Scheduler" --execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin","Region":"us-east-1","Parameters":{"SchedulingActive":["Yes"],"ScheduledServices":["ec2,rds,autoscaling"],"TagName":["Schedule"],"DefaultTimezone":["America/New_York"],"Action":["Deploy"]}}'
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では DeployResSchedulerParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0ywnhc8e5k9z5" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > DeployResSchedulerParams.json
```

2. DeployResSchedulerParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "SchedulingActive": [
      "Yes"
    ],
    "ScheduledServices": [
      "ec2,rds,autoscaling"
    ],
    "TagName": [
      "Schedule"
    ],
    "DefaultTimezone": [
      "America/New_York"
    ],
    "Action": [
      "Deploy"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では DeployResSchedulerRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeployResSchedulerRfc.json
```

4. DeployResSchedulerRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "2.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-0ywnhc8e5k9z5",
  "Title":                "Deploy AMS Resource Scheduler"
}
```

5. DeployResSchedulerRfc ファイルと DeployResSchedulerParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeployResSchedulerRfc.json --
execution-parameters file://DeployResSchedulerParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

背景情報については、[「AMS Resource Scheduler の仕組み」](#)を参照してください。クイックスタートチュートリアルについては、[「AMS Resource Scheduler のクイックスタート」](#)を参照してください。

AMS Resource Scheduler は AWS Instance Scheduler に基づいています。詳細については、[「AWS Instance Scheduler」](#)を参照してください。

AMS リソーススケジューラソリューションの更新

コンソールを使用した AMS Resource Scheduler ソリューションの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した AMS Resource Scheduler ソリューションの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id ct-2c7ve50jost1v --change-type-version "2.0" --title "Update Resource Scheduler Configurations"
--execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin","Region":"us-east-1","Parameters":{"SchedulingActive":["Yes"],"ScheduledServices":["ec2,rds,autoscaling"],"TagName":["Schedule"],"DefaultTimezone":["America/New_York"],"Action":["Update"]}}'
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateResSchedulerParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2c7ve50jost1v"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateResSchedulerParams.json
```

2. UpdateResSchedulerParams ファイルを変更して保存します。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "SchedulingActive": [
    "Yes"
  ],
  "ScheduledServices": [
    "ec2,rds,autoscaling"
  ],
  "TagName": [
    "Schedule"
  ],
  "DefaultTimezone": [
    "America/New_York"
  ],
  "Action": [
    "Update"
  ]
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateResSchedulerRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateResSchedulerRfc.json
```

4. UpdateResSchedulerRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2c7ve50jost1v",
  "Title": "Update Resource Scheduler Configurations"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateResSchedulerRfc ファイルと UpdateResSchedulerParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateResSchedulerRfc.json --
execution-parameters file://UpdateResSchedulerParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

背景情報については、「[AMS Resource Scheduler の仕組み](#)」を参照してください。クイックスタートチュートリアルについては、「[AMS Resource Scheduler のクイックスタート](#)」を参照してください。

AMS Resource Scheduler は AWS Instance Scheduler に基づいています。詳細については、「[AWS Instance Scheduler](#)」を参照してください。

アクセスキーを削除または非アクティブ化する

コンソールを使用したアクセスキーの削除または無効化

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したアクセスキーの削除または無効化

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

Note

ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 5,000 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ファイルに 5,000 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用を開いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-37qquo9wbpa8x" --change-type-version "2.0"
--title "Delete or deactivate access key" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-DeactivateIAMAccessKeyV2\", \"Region\": \"\", \"Parameters\":
{\"UserName\": \"test-user\", \"AccessKeyId\": \"AKIAIOSFODNN7EXAMPLE\", \"Delete
\": false}\"}
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例の名前は DeactivatelamAccessKeyParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-37qquo9wbpa8x"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeactivateIamAccessKeyParams.json
```

2. DeactivatelamAccessKey ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-DeactivateIAMAccessKeyV2",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "UserName": "test-user",
    "AccessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
    "Delete": false
  }
}
```

```
}  
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを DeactivatelamAccessKeyRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeactivateIamAccessKeyRfc.json
```

4. DeactivatelamAccessKeyRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "2.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-37qquo9wbpa8x",  
  "Title": "Delete or Deactivate Access Key"  
}
```

5. DeactivatelamAccessKeyRfc.json ファイルと CreatelamResourceNrrParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeactivateIamAccessKeyRfc.json --  
execution-parameters file://DeactivateIamAccessKeyParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および [「マネージドポリシーとインラインポリシー」](#) を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、[「IAM リソースのデプロイ」](#) を参照してください。

アクセスキーを作成する

コンソールを使用したアクセスキーの作成

仕組み:

- RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したアクセスキーの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

Note

ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 5,000 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ファイルに 5,000 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用に関いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2hhqzgxvkcig8" --change-type-version
"2.0" --title "Create access key" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-CreateIAMAccessKey\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{\"UserARN\": \"arn:aws:iam::012345678910:user/myusername\"}}\"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では、CreatelamAccessKeyParameters.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2hhqzgxvkcig8"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateIamAccessKeyParameters.json
```

2. CreatelamAccessKeyParameters.json ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateIAMAccessKey",
  "Region": "ap-southeast-2",
  "Parameters": {
    "UserARN": "arn:aws:iam::012345678910:user/myusername"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreatelamAccessKeyRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateIamAccessKeyRfc.json
```

4. CreatelamAccessKeyRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2hhqzgxvkcig8",
  "Title": "Create IAM access key"
}
```

5. CreatelamAccessKeyRfc.json ファイルと CreatelamAccessKeyParameters.json ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateIamAccessKeyRFC.json --
execution-parameters file://CreateIamAccessKeyParameters.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[マネージドポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

詳細モニタリングを有効化

コンソールで詳細モニタリングを有効にする

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI で詳細モニタリングを有効にする

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-21112gxvsrrhy" --change-type-version "1.0"
--title "Enable Detailed Monitoring" --execution-parameters "{\"InstanceIds\":
[\"i-1234567890abcdef0\", \"i-1234567890abcdef1\"]}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では EnableDetailedMonitoringParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-21112gxvsrrhy"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
EnableDetailedMonitoringParams.json
```

2. EnableDetailedMonitoringParams ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "InstanceIds": ["i-0cc489fa851c31a21", "i-0cc489fa851c31a22"]
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では EnableDetailedMonitoringRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > EnableDetailedMonitoringRfc.json
```

4. EnableDetailedMonitoringRfc ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-21112gxvsrrhy",
  "Title": "Enable Detailed Monitoring"
}
```

5. RFC を作成し、EnableDetailedMonitoringRfc ファイルと EnableDetailedMonitoringParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://EnableDetailedMonitoringRfc.json --
execution-parameters file://EnableDetailedMonitoringParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

サイズのレコメンデーションを含む Amazon EC2 の詳細については、[「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」](#)を参照してください。

DeleteOnTermination オプションを更新する (マネージドオートメーション)

コンソールでの DeleteOnTermination オプションの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した DeleteOnTermination オプションの更新

仕組み:

- インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2aaaqid7asjy6" --change-type-version
"1.0" --title "Update DeleteOnTermination" --execution-parameters "{\"InstanceId
\": \"i-1234567890abcdef0\", \"DeviceNames\": [\"/dev/sda1\", \"/dev/xvda\"],
\"DeleteOnTermination\": \"False\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateDeleteOnTerminationParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2aaaqid7asjy6"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateDeleteOnTerminationParams.json
```

2. UpdateDeleteOnTerminationParams.json ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "InstanceId": "i-0cc489fa851c31a21",
  "DeviceNames": [
    "/dev/sda1",
    "/dev/xvda"
  ],
  "DeleteOnTermination": "False"
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateDeleteOnTerminationRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateDeleteOnTerminationRfc.json
```

4. UpdateDeleteOnTerminationRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2aaaqid7asjy6",
```

```
"Title": "Update DeleteOnTermination"  
}
```

5. RFC を作成し、UpdateDeleteOnTerminationRfc.json ファイルと UpdateDeleteOnTerminationParams.json ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateDeleteOnTerminationRfc.json --  
execution-parameters file://UpdateDeleteOnTerminationParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

6. レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

サイズのレコメンデーションを含む Amazon EC2 の詳細については、[「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」](#)を参照してください。

RDS メンテナンスウィンドウの更新 (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した RDS メンテナンスウィンドウの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページ

を開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用した RDS メンテナンスウィンドウの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-27jyy5wnrfef2" --change-type-version "1.0"
--title "Update RDS Maintenance Window" --execution-parameters "{\"DBIdentifierArn\":
\"arn:aws:rds:us-east-1:123456789101:db:database-1\", \"PreferredMaintenanceWindow\":
\"Sun:04:00-Sun:04:30\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateRDSMaintenanceWindowParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-27jyy5wnrfef2"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateRDSMaintenanceWindowParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DBIdentifierArn": "arn:aws:rds:us-east-1:123456789101:db:database-1",
  "PreferredMaintenanceWindow": "Sun:04:00-Sun:04:30"
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json
```

4. UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-27jjy5wnrfef2",
  "Title": "Update RDS Maintenance Window"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json --
execution-parameters file://UpdateRDSMaintenanceWindowParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

6. レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については、AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

RDS パフォーマンスインサイトの更新 (マネージドオートメーション)

コンソールを使用した RDS パフォーマンスインサイトの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI によるパフォーマンスインサイトの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-31eyj2h1vqjwu" --change-type-
version "1.0" --title "Update Performance Insights." --execution-parameters
{"\"DBIdentifierArn\": \"arn:aws:rds:us-east-1:123456789012:cluster:database-1\",
\"PerformanceInsights\": \"true\", \"PerformanceInsightsKMSKeyId\": \"default\",
\"PerformanceInsightsRetentionPeriod\": \"7 days\"}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdatePerformanceInsightsParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-31eyj2hlvqjwu"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdatePerformanceInsightsParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DBIdentifierArn": "arn:aws:rds:us-east-1:123456789101:cluster:database-1",
  "PerformanceInsights": "true",
  "PerformanceInsightsKMSKeyId": "default",
  "PerformanceInsightsRetentionPeriod": "7 days"
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdatePerformanceInsightsRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdatePerformanceInsightsRfc.json
```

4. UpdatePerformanceInsightsRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-31eyj2hlvqjwu",
  "Title": "Update Performance Insights"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRdsRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdatePerformanceInsightsRfc.json --
execution-parameters file://UpdatePerformanceInsightsParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

6. レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については、AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

セキュリティグループの作成 (マネージドオートメーション)

コンソールを使用したセキュリティグループ (マネージドオートメーション) の作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット:

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用して RFC のコピーを作成します。

CLI を使用したセキュリティグループ (マネージドオートメーション) の作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC および実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\" : {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成:

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create Rfc` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws --profile saml amscm create-rtc --change-type-id "ct-10xx2g2d7hc90" --change-type-version "2.0" --title "Test-SG-RR" --execution-parameters "{\"Description\": \"Test-SG-RR\", \"Name\": \"Test-SG-IC\", \"InboundRules\": {\"Protocol\": \"TCP\", \"PortRange\": \"49152-65535\", \"Source\": \"203.0.113.5/32\"}, \"OutboundRules\": {\"Protocol\": \"TCP\", \"PortRange\": \"49152-65535\", \"Destination\": \"203.0.113.5/32\"}}"
```

テンプレートの作成:

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、`CreateSgRrParams.json`。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-10xx2g2d7hc90" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateSgRrParams.json
```

2. `CreateSgRrParams` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description": "SG-Create-With-Review",
  "Name": "My-SG",
  "VpcId": "vpc-12345abc",
  "InboundRules": {
    "Protocol": "TRAFFIC_PROTOCOL",
    "PortRange": "PORT_RANGE",
    "Source": "TRAFFIC_SOURCE"
  },
  "OutboundRules": {
    "Protocol": "TRAFFIC_PROTOCOL",
    "PortRange": "PORT_RANGE",
  }
}
```

```
"Destination": "TRAFFIC_DESTINATION"
}
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreateSgRrRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateSgRrRfc.json
```

4. CreateSgRrRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-10xx2g2d7hc90",
  "Title": "SG-Create-RR-RFC"
}
```

5. CreateSgRrRfc ファイルと CreateSgRrParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateSgRrRfc.json --execution-parameters file://CreateSgRrParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

セキュリティグループを作成するための自動変更タイプとして、デプロイ | 高度なスタックコンポーネント | セキュリティグループ | TCP および ICMP の入出カールのオプションを提供する作成 (マネージドオートメーションなし) (ct-3pc215bnwb6p7) があります。これらのルールが適切である場合、作成 (自動) 変更タイプはこの変更タイプよりも迅速に実行されます。詳細については、[「セキュリティグループ | 作成」](#)を参照してください。

Note

セキュリティグループが作成されたら、[セキュリティグループ | 関連付け](#)を使用して、セキュリティグループを AMS リソースに関連付けます。セキュリティグループを削除するには、関連付けられたリソースが必要です。

Note

アウトバウンドルールは必要ありません。ただし、指定しない場合、「127.0.0.1/32 ブラックホールルール」が使用されます。つまり、リソースは他のリソースとは通信できず、それ自体とのみ通信できます。このデフォルトのアウトバウンドルールは、AMS コンソールを使用する場合に表示されますが、AMS API/CLI を使用する場合は表示されません。

これは手動の変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります。RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、手動変更タイプの RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

AWS セキュリティグループとセキュリティグループの作成の詳細については、[「セキュリティグループルールリファレンス」](#)を参照してください。このページは、必要なルールを決定するのに役立ちます。重要なのは、セキュリティグループに名前を付ける方法であり、他のリソースを作成するときに選択するのが直感的です。[「Linux インスタンス用の Amazon EC2 セキュリティグループ」](#)や[「VPC 用のセキュリティグループ」](#)も参照してください。

一般的な AWS セキュリティの詳細については、[「セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンスのベストプラクティス」](#)を参照してください。

セキュリティグループが作成されたら、[セキュリティグループ | 関連付け](#)を使用して、セキュリティグループを AMS リソースに関連付けます。セキュリティグループを削除するには、関連付けられたリソースが必要です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。